

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	関西学院大学
設置者名	学校法人関西学院

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
神学部		夜・通信						
文学部	文化歴史学科	夜・通信						
	総合心理科学科	夜・通信						
	文学言語学科	夜・通信						
社会学部	社会学科	夜・通信						
法学部	法律学科	夜・通信						
	政治学科	夜・通信						
経済学部		夜・通信						
商学部		夜・通信						
理工学部	物理学科	夜・通信	16		16	13		
	化学科	夜・通信						
	生命科学科	夜・通信						
	情報科学科	夜・通信						
	数理科学科	夜・通信						
	人間システム工学科	夜・通信						
	先進エネルギーナノ工学科	夜・通信						
	環境・応用化学科	夜・通信						
	生命医化学科	夜・通信						
総合政策学部	総合政策学科	夜・通信						
	メディア情報学科	夜・通信						
	国際政策学科	夜・通信						
	都市政策学科	夜・通信						
人間福祉学部	社会福祉学科	夜・通信						
	社会起業学科	夜・通信						
	人間科学科	夜・通信						
教育学部	教育学科	夜・通信						
国際学部	国際学科	夜・通信						
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.kwansei.ac.jp/c_h1/news/2019/news_20190401_022494.html

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	関西学院大学
設置者名	学校法人関西学院

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://www.kwansei.ac.jp/kwansei_019050.html

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	会社役員（現職）	2019年4月1日～ 2022年3月31日	組織運営体制への チェック機能
非常勤	会社役員（現職）	2019年4月1日～ 2022年3月31日	組織運営体制への チェック機能
非常勤	会社役員（現職）	2019年4月1日～ 2022年3月31日	組織運営体制への チェック機能
非常勤	会社役員（前職）	2019年4月1日～ 2022年3月31日	組織運営体制への チェック機能
非常勤	会社役員（前職）	2019年4月1日～ 2022年3月31日	組織運営体制への チェック機能
非常勤	会社役員（前職）	2019年4月1日～ 2022年3月31日	組織運営体制への チェック機能
非常勤	地方公共団体顧問 （現職）	2019年4月1日～ 2022年3月31日	組織運営体制への チェック機能
（備考）			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	関西学院大学
設置者名	学校法人関西学院

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画の作成・公表に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年 11 月頃から担当教員にシラバス作成を依頼している。依頼に当たり、授業の魅力を分かり易く伝えるための書き方が記載された「授業シラバス執筆の手引き」を全学的に配布している。 ・当該年度のシラバスを、年度開始前の 3 月 1 日に春学期・秋学期開講含めてすべて公開している。シラバスは Web 上からアクセスすれば、誰でも閲覧することができる。 ・シラバスには、授業目的、到達目標、授業の概要・背景、授業方法、成績評価方法、授業計画、授業時間外学習の内容等が含まれており、授業目的、到達目標、成績評価方法は日英併記となっている。 	
<p>授業計画の公表方法</p>	<p>シラバス閲覧システム (https://syllabus.kwansei.ac.jp/uniasv2/UnSSOLoginControlFree)</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成績評価項目は、「定期試験」、「定期レポート」、「授業中試験」、「平常レポート」、「その他」から選択式となっており、「その他」を選択した場合は、詳細の記入が必須となっている。また、成績評価項目は入力必須項目となっており、シラバス公開時に必ず設定されている。 ・成績評価方法については、学期開始約 1 ヶ月以降は追加・修正しないよう教員にアナウンスしており、シラバスの成績評価方法欄は編集できないようロックをかけている。 ・学修成果を厳格かつ適正に評価するために、「成績調査依頼期間」を設けており、学生は成績に疑問がある場合は、担当教員に問い合わせることができる。 	

<p>3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) G P A制度を採用し、以下の基準でG P を付与することを学生に公表している。併せて、G P Aの算定対象となる科目、履修中止制度についても公表している。G P Aは学期ごと、年度ごと、通算で算出され、成績発表時に発表される。</p> <p>■ G P A算出式 〔(科目の単位数) × (その科目の評価の G P)] 総和 / (履修登録した単位数) 総和</p> <p>■ 2019 年度以降入学生： 100～90 点又は S 評価の場合の G P は 4.0 89～85 点又は A+ 評価の場合の G P は 3.5 84～80 点又は A 評価の場合の G P は 3.0 79～75 点又は B+ 評価の場合の G P は 2.5 74～70 点又は B 評価の場合の G P は 2.0 69～65 点又は C+ 評価の場合の G P は 1.5 64～60 点又は C 評価の場合の G P は 1.0 59～ 0 点又は F 評価の場合の G P は 0</p> <p>■ 2018 年度以前入学生： 100～90 点 又は S 評価の場合の G P は 4 89～80 点 又は A 評価の場合の G P は 3 79～70 点 又は B 評価の場合の G P は 2 69～60 点 又は C 評価の場合の G P は 1 59～ 0 点 又は F 評価の場合の G P は 0</p>	
<p>客観的な指標の 算出方法の公表方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・履修心得 (年度開始前に全学生に配布される冊子) ・ホームページ (https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000539.html)
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべての学生が卒業時に学部の違いなく共通に身に付けるべき知識・能力・資質を「Kwansei コンピテンシー」と定め、これを大学の教育に通底するものとして位置づけている。 ・学部ごとの特色に応じたディプロマ・ポリシー (学位授与の方針) を定め、公表している。また、ディプロマ・ポリシーに基づいたカリキュラム・ポリシーを定め、学部の教育目標を達成するための教育課程を編成している。 ・卒業の要件については、履修心得・教育課程表に記載し、周知している。 ・卒業判定の手順については、履修心得・掲示等で成績発表、成績調査依頼期間、卒業発表のスケジュールを学生に周知している。 	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・履修心得 (年度開始前に全学生に配布される冊子) ・ホームページ (https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000660.html#2)

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	関西学院大学
設置者名	学校法人関西学院

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	左記の財務諸表等はすべて「事業報告書」の中にまとめて掲載し、ホームページで公表している。 https://www.kwansei.ac.jp/pr/pr_001260.html
収支計算書又は損益計算書	
財産目録	
事業報告書	
監事による監査報告(書)	

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称: Kwansei Grand Challenge 2039 中期総合経営計画 対象年度: 2018~2027)	
公表方法: https://kgc2039.jp/	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.kwansei.ac.jp/kikaku/kikaku_m_001630.html

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.kwansei.ac.jp/kikaku/kikaku_m_001630.html

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 神学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.kwansei.ac.jp/s_theology/s_theology_001742.html
（概要） 神学部は、理念を基に、神学研究の発展に努め、また伝道者の育成ならびに広くキリスト教の思想および文化の理解を求めて、キリスト教神学の基礎と専門領域双方において教育を行う。その目標とするところは、人間を自然と社会との関わりにおいて考察し、そこにある問題を探り出し、キリストの福音に照らして今日における生の意味やその規範を模索しつつ、そこで見出したものを他者に伝え、社会に仕える人材を育成することにある。
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000660.html#2
（概要） 1. 神学を学ぶための基礎力を修得している 2. 大学生に相応しい基礎力を修得している 3. 旧約・新約聖書、キリスト教の歴史、教理、実践の基本的知識を修得している 4. キリスト教文化、諸宗教について基本的知識を修得している 5. 大学生に相応しいコミュニケーションができる 6. 伝道者コースの学生はキリスト教伝道者としての知識を修得している 7. 伝道者コースの学生はキリスト教伝道者に相応しい技能をもっている 8. 伝道者コースの学生はキリスト教伝道者に相応しい関心をもっている 9. 旧約・新約聖書、キリスト教の歴史、教理、実践、思想・文化、諸宗教のいずれかについて 発展的知識を修得している 10. キリスト教神学についてのレポートあるいは論文を執筆することができる 11. キリスト教を広く様々な問題のなかで捉える関心、問題意識をもっている 12. 神学の領域を超えて汎用的な知識、技能、関心をもっている 13. 現代社会の中でキリスト教に関して専門的知識を基に必要な技能を用いて積極的に考えることができる
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000660.html#2
（概要） 大学生に相応した基礎力の修得（キリスト教教育科目群／言語教育科目群／基礎教育科目群） *神学部で学ぶための基礎知識を修得している *キリスト教、人権問題、メソジストの伝統と神学部について基本的な知識を修得している *英語の基礎力を修得している *独語の基礎力を修得している *ワープロ、表計算、提案用PCソフトを用いることができる *レポート・論文を書くための基礎力を修得している *プレゼンテーションをすることができる *文献講読の基礎力を修得している キリスト教神学を学ぶための基礎的知識、技能、関心の修得（専門基礎科目群） *旧約聖書について基本的知識を修得している

- *新約聖書について基本的知識を修得している
- *キリスト教の歴史について基本的知識を修得している
- *キリスト教の教理について基本的知識を修得している
- *キリスト教の礼拝、祈祷、教育、福祉等の実践について基本的知識を修得している
- *宗教一般について基本的知識を修得している
- *キリスト教芸術について基本的知識を修得している
- *キリスト教思想・文化について基本的知識を修得している
- *キリスト教の古典語について基本的知識を修得している
- *英語あるいは独語で専門的な文献を読解できる
- *ディスカッションを通じたコミュニケーションができる
- *英語による基本的なコミュニケーションができる

キリスト教伝道者としての基礎力の修得（キリスト教伝道者コース）

- *キリスト教の礼拝、祈祷、教育、福祉等の実践について発展的知識を修得している
- *世界や社会におけるキリスト教の状況、有り様についての知識を修得している
- *新約聖書を読むためのギリシャ語の基礎知識を修得している
- *キリスト教またはその精神を実践する専門職につくための基本的技能を身につけている
- *現代社会におけるキリスト教宣教について問題意識をもつ
- *キリスト教の福音に基づいて生の意味や規範等を広く他者に伝えようという関心をもつ
- *宗教的教養を身につけ、対話能力をもつ

キリスト教神学に関する発展的知識、技能、関心の修得（専門専攻科目群）

- *旧約聖書について発展的な知識を修得している
- *新約聖書について発展的な知識を修得している
- *キリスト教の歴史について発展的な知識を修得している
- *キリスト教の教理について発展的な知識を修得している
- *キリスト教芸術について発展的な知識を修得している
- *宗教一般について発展的な知識を修得している
- *キリスト教思想・文化について発展的な知識を修得している
- *キリスト教神学について発展的な知識を得る方法を用いて分析・考察を行うことができる
- *神学研究の成果を、レポート、論文として執筆することができる
- *キリスト教神学を専門的に研究するための知識・技能を修得している
- *人間相互の個性・多様性、文化の国際性を尊重し、良好な人間関係を形成することに関心をもつ
- *キリスト教思想あるいは文化の現代的な意味について問題意識をもつ
- *人権問題、環境問題、生命倫理、福祉等の国際的・現代的な問題について関心をもつ

"Mastery for Service"を実践するための基礎的・発展的知識、技能の修得

- *キリスト教の福祉（ディアコニア）について基本的な知識と技能を修得している
- *キリスト教の福祉（ディアコニア）について発展的な知識と技能を修得している

神学の領域を超えて汎用的な知識、技能、関心の修得（自由履修科目群）

- *専門的な学問領域の枠を超えた広汎な教養および柔軟な思考方法・思考力を身につける

<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法： https://www.kwansei.ac.jp/admissions/admissions_003734.html</p>
<p>（概要）</p> <p>神学部では、キリスト教が人類の歴史の中で生み出してきた思想や文化的財などについて専門領域ならびに学際的領域での学びを深め、その精神に基づいて社会に奉仕できる人材を育成することを目標としています。</p> <p>くわえて高等学校までの基礎的な学習を土台にして、ボランティアや課外活動、あるいは社会人としての経験などから培った多様な能力をもつ者を幅広く受け入れています。</p> <p>そのため、以下の項目を募集方針の要素として、筆記を中心とする一般選抜入学試験と、面接等を取り入れた各種入学試験によって高等学校における基礎学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を、それぞれの入学試験において重み付けを行い評価しています。</p> <p>神学部に入学者を望む者に期待することは、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. キリスト教の生み出した思想、文化的財などの学際的な領域に興味をもっている 2. キリスト教について幅広く関心をもっている 3. 世界の歴史や日本の歴史について知識がある 4. 日本語、英語について一定水準の能力がある 5. 「倫理」あるいは「数学」あるいは「地理」について知識がある <p>キリスト教伝道者コースに入学者を許可される者は、</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. 将来クリスチャンワーカーを含めた伝道者となる意志をもっている 7. バプテスマ（洗礼）を受けた者である 8. 聖書、キリスト教について一定量の知識がある 9. 聖書、キリスト教について調べることができる
<p>学部等名 文学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法： https://www.kwansei.ac.jp/s_humanities/s_humanities_001226.html</p>
<p>（概要）</p> <p>人間存在とその営為を、さまざまな方向からの検討を通じて明らかにする専門的能力を涵養するとともに、豊かな人間性を育み現代社会を理解するための幅広い視点と教養の獲得を重視して教育研究を進める。それにより、包括的で幅広い教養と高度で専門的な知識をあわせ持ち、深い洞察力を身につけた人間を育成する。</p> <p>以下に学科ごとの目的を掲げるとともに、さらに三学科に共通する目標を示す。</p> <p>文化歴史学科 文化歴史学科は、真・善・美の理想を求めて空間と時間の中を生きる人間の基礎的構造及び歴史について、教育研究を行う。</p> <p>総合心理科学科 総合心理科学科は、現代社会に生きる人間の心理的諸相について、認知・行動・発達の観点から、そのあるべきあり方や病理を含めて、教育研究を行う。</p> <p>文学言語学科 文学言語学科は、言葉を持ち文化を形成する人間の営為について、文学と言語の両面から教育研究を行う。</p> <p>共通の目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 基礎的能力を育み幅広い教養の獲得を目指す教育研究 基礎・基本を重視した教育を通じて、主体的に課題を設定しこれを解決できる能力を養成するとともに、人文学的素養に立脚した真の知性と品格をそなえた人間の育成を目指す。 2) 学際性に富む教育研究

広範で多様な学問領域にふれることを通じて均整のとれた柔軟な思考能力を涵養するとともに、文化全体を見渡す視野と方法を身につけ創造的に考え自ら行動することのできる能力を養成する。

3) 社会の中の個人であることを重視する教育研究

豊かな人間性と幅広い教養を持ち、よき住民、市民として地域社会や国家はもとより、国際社会においても重要な貢献をなし得る能力を養成する。同様に、よき社会人、職業人として各界に積極的な貢献をなし得る能力を養成する。

4) 深い専門的知識に基づく高度な思考能力を涵養する教育研究

高度専門職及び研究職の養成（大学院教育）を視野に入れながら、その基盤となる強固な学問的知識及び技能の獲得を達成し、学問的な立場から社会に貢献できる能力を養成する。

卒業の認定に関する方針（公表方法：

https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000660.html#2

（概要）

文学部の教育理念と目的に沿って設定された様々な授業科目の中から、各学科・専修の求める専門性に従った履修体系と学生の主体的な関心に基づいて科目を履修し、必要とされる単位数を修得することが学士学位授与の要件となる。特に文学部では学修の集大成として卒業論文の作成が義務づけられている。

学士学位の取得にあたって学生に求められるのは、

① 人文科学の基礎的知識のもとに、人間存在とその営為について主体的に課題を発見し、適切に問題を設定する能力と、幅広い観点から対象を洞察し、合理的に解決する能力を身につけていること、

② 広範で多様な人文科学の学問領域に触れることを通じて、広い視野と均整のとれた柔軟な思考能力を身につけていること、である。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000660.html#2

（概要）

（1）4年間のカリキュラムを通じて、以下のような人材の育成を目指す。

1. 基礎・基本を重視した教育を通じて、主体的に課題を設定し、これを解決できる能力を養成するとともに、人文学的素養に立脚した真の知性と品格をそなえた人間の育成を目指す。

2. 広範で多様な学問領域にふれることを通じて、均整のとれた柔軟な思考能力を涵養するとともに、文化全体を見渡す視野と方法を身につけ、創造的に考え自ら行動することのできる能力を養成する。

3. 豊かな人間性と幅広い教養を持ち、よき市民として地域社会や国家はもとより、国際社会においても重要な貢献をなし得る能力を養成する。同様に、よき社会人、職業人として、各界に積極的な貢献をなし得る能力を養成する。

4. 高度専門職及び研究職の養成（大学院教育）を視野に入れながら、その基盤となる強固な学問的知識及び技能の獲得を達成し、学問的な立場から社会に貢献できる能力を養成する。

（2）3学科それぞれの年次毎のカリキュラムの理念は以下の通りである。

1. 文化歴史学科

第1学年度では、大学における学修の基礎を身につけ、学科に関連する諸領域への関心を深める。

第2学年度では、学科・専修の提供する概論等の専門講義科目から将来の専門に関わる科目に重点をおいた学修を導く。さらに、資料・史料の読解・調査やテキストの解釈などを目的とする研究科目の提供を通じ、自ら読み解き理解することのできる基礎的学力を養成する。

第3学年度では、所属する専修が提供する演習科目、研究科目、特殊講義科目、文化

歴史学科他専修が提供する学科科目等を通じて、専門的な研究能力の養成を行う。
第4学年度では、それまでに身につけた専門知識や研究能力を十分に展開し、専修諸分野のそれぞれにおいて、学生各自が個別に設定したテーマと目標に従い卒業研究を完成させる。

2. 総合心理科学科

第1学年度では、大学における学修の基礎を身につけ、学科に関連する諸領域への関心を深める。

第2学年度では、専修の提供する専門講義科目に重点をおいた学修を導くとともに、心理科学に関する専門用語の習得や英文読解力を養う研究科目、心理科学の研究方法を身につけるための実験実習科目の提供を通じて基礎的知識や技術を養成する。

第3学年度では、専修が提供する演習科目、研究科目、実験実習科目、専門講義科目を通じて、専門的な研究能力の養成を行う。

第4学年度では、それまでに身につけた専門知識や能力をもとに、各研究分野において学生各自が個別に設定したテーマと目標に従い卒業研究を完成させる。

3. 文学言語学科

第1学年度では、大学における学修の基礎を身につけ、学科に関連する諸領域への関心を深めるとともに関連する言語の修得につとめる。

第2学年度では、学科・専修の提供する専門講義科目に重点をおいた学修を導くとともに、文献資料の読解や作品・テキストの解釈などを目的とする研究科目を重視して、自ら読み解き理解していくことのできる基礎的学力を養成する。

第3学年度では、所属する専修が提供する演習科目、研究科目、専門言語科目、特殊講義科目、文学言語学科他専修が提供する学科科目等を通じて専門的な研究能力の養成を行う。

第4学年度では、それまでに身につけた専門知識や研究能力を十分に展開し、専修諸分野のそれぞれにおいて学生各自が個別に設定したテーマと目標に従い卒業研究を完成させる。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

https://www.kwansei.ac.jp/admissions/admissions_003734.html

（概要）

文学部は、建学の精神に則ったキリスト教主義教育ならびに人文学の修得を通じて、全人的陶冶を行うことを教育理念としています。多様な領域にまたがる人文学の教育・研究のために、文学部は文化歴史学科、総合心理科学科、文学言語学科の3学科で構成され、さらに11の専修に区分されていますが、どの専修に所属しても学生それぞれの関心に従って基礎的な科目群から専門的な科目群まで幅広く履修できるよう柔軟なカリキュラムを組んでいます。また最終的な到達目標として卒業論文の作成が必修とされています。4年間の勉学を通して、主体的に学び、自ら問題を見出し追究していく姿勢が重要です。高等学校の学習においても、基本的な科目全般にわたって基礎学力を充実させるとともに、幅広く客観的な視野と、先入観や画一的なものの見方に囚われない柔軟な思考力、さらには自らが興味関心を持ったテーマに対して粘り強く取り組んでいく姿勢を培っておくことが求められます。このような総合的な知的基盤を備え、かつ自らの見出した研究課題に積極的に取り組んでいかれる資質に富んだ者を、一般入学試験・各種入学試験それぞれの特徴を生かして、本学部の学生として受け入れることを基本方針としています。

学部等名 社会学部

教育研究上の目的（公表方法：

https://www.kwansei.ac.jp/s_sociology/s_sociology_002587.html

<p>(概要)</p> <p>社会学部は、社会学を中心とした学術研究を推進するとともに、学士課程教育を通して、自由で自律的な態度、よりよい社会の実現に貢献しようとする意欲、幅広くかつ系統的な社会学的知識と思考力、実践的な汎用的技能を身につけ、グローバル化した現代社会で活躍できる人材の養成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000660.html#2</p>
<p>(概要)</p> <p>(2015年度以前入学生用)</p> <p>1. [態度・関心] 建学の精神にもとづく態度と社会・文化・人間への関心</p> <p>①自らを律する主体としての強さを身につけ、それにもとづいて、他者と協力してよりよい関係や社会を築くために貢献していこうとする基本的な態度を身につけている（スクールモットーである“Mastery for Service”の態度）。</p> <p>②現代社会やそこに生きる人間、そして異文化や多文化に深い関心をもち、生涯にわたって学び、考えていこうとする意欲をもっている。</p> <p>2. [知識・思考] 社会学を核とする幅広い学際的知識と社会学的思考力</p> <p>①社会学を核とする幅広い学際的な知識を身につけ、現代社会やそこに生きる人間が抱える問題と解決に向けての実践について理解するとともに、グローバル化にともなう社会現象や諸問題についての知識を身につけている。</p> <p>②社会学的な視点と思考力（社会学的想像力）を身につけ、論理的かつ実証的な思考や判断ができる。</p> <p>③社会調査の実践的な意義を理解し、社会調査についての基本的な知識を身につけている。</p> <p>3. [技能・表現] 実践的なジェネリック・スキル（汎用的技能）</p> <p>①生涯にわたって学習するための技能（ICTを用いた情報収集・分析・評価の能力、論理的・批判的な思考能力、数量的スキル、表現・伝達能力など）を身につけている。</p> <p>②日本語および一つ以上の外国語によって、的確に理解（読み・聞き）し、わかりやすく表現（書き・話す）するためのコミュニケーション・スキルを身につけている。</p> <p>③社会調査についての基礎的な技能を身につけている。</p> <p>4. [統合的能力] 総合的学習成果としての課題解決能力</p> <p>上記1～3の学習成果、すなわちソシオリテラシーを総合的に活用して、自ら課題を発見し、その課題を社会学的に分析・解決することができる能力を身につけている。</p> <p>(2016年度以降入学生用)</p> <p>1. [態度・関心] 建学の精神にもとづく態度と社会・文化・人間への関心</p> <p>①自らを律する主体としての強さを身につけ、それにもとづいて、他者と協力してよりよい関係や社会を築くために貢献していこうとする基本的な態度を身につけている（スクールモットーである“Mastery for Service”の態度）。</p> <p>②現代社会やそこに生きる人間、そして異なる文化に深い関心をもち、生涯にわたって学び、考えていこうとする意欲をもっている。</p> <p>2. [知識・思考] 社会学を核とする幅広くかつ系統的な知識と思考力</p> <p>①社会学を核とする幅広くかつ系統的な知識を身につけ、現代社会やそこに生きる人間が抱える問題と解決に向けての実践について理解するとともに、グローバル化にともなう社会現象や諸問題についての知識を身につけている。</p> <p>②社会学的な視点と思考力（社会学的想像力）を身につけ、論理的かつ実証的な思考や判断ができる。</p> <p>③社会調査の実践的な意義を理解し、社会調査についての基本的な知識を身につけている。</p>

3. [技能・表現] 実践的なジェネリック・スキル (汎用的技能)
- ①生涯にわたって学習するための技能 (ICT を用いた情報収集・分析・評価の能力、論理的・批判的な思考能力、数量的スキル、表現・伝達能力など) を身につけている。
- ②日本語および一つ以上の外国語によって、的確に理解 (読み・聞き) し、わかりやすく表現 (書き・話す) するためのコミュニケーション・スキルを身につけている。
- ③社会調査についての基礎的な技能を身につけている。
4. [統合的能力] 総合的学習成果としての課題解決能力
- 上記1～3の学習成果を総合的に活用して、自ら課題を発見し、その課題を社会的に分析・解決することができる能力を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法:

https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000660.html#2

(概要)

(2015年度以前入学生用)

社会学部では、学部の教育目標を達成するために、学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー) に基づいて、A群科目 (必修科目)、B群科目 (選択必修科目) およびC群科目 (自由選択科目) を系統的に配置する。

A群科目 (必修科目)

「キリスト教科目」 (キリスト教学A・B)

主に、建学の精神に基づく基本的態度を身につける (DP-1 ①) ための科目

「言語教育科目 (必修)」

主に、外国語によるコミュニケーション・スキルを身につける (DP-3 ②) ための科目

「アカデミック・プレパレーション科目」 (基礎演習、社会学リレー講義A・B)

導入教育を行い、主に、社会・文化・人間への関心と生涯にわたる学習意欲を養う (DP-1 ②)

とともに、生涯にわたって学習するための汎用的技能を身につける (DP-3 ①) ための科目 「インターメディアエイト・スタディーズ科目」 (インターメディアエイト演習)

主に、社会的な視点と思考力 (社会的想像力) を身につけ (DP-2 ②)、より発展的な教育研究へと橋渡しする科目 「アドバンスト・リサーチ科目」 (研究演習I・II、卒業論文)

学部教育の集大成として、自ら課題を発見し、その課題を社会的に分析・解決する能力を身につける (DP-4) ための科目

B群科目 (選択必修科目)

「3系7領域科目」 (メディア、社会表象、グローバル社会、現代社会学、ソーシャルネットワーク、

臨床社会、社会心理の各領域)

主に、社会学を核とする幅広い学際的な知識と理解、社会問題についての知識と理解、グローバル

化にともなう諸問題についての知識と理解などを身につける (DP-2 ①) ための科目 (個性と関心に応じた多様な学習のあり方を保証するとともに、履修モデルの提示などによって、系統的な学習を保証する)

「リサーチ・講読科目」 (社会調査論A・Bなど)

主に、社会調査の実践的な意義を理解し、社会調査の基本的な知識と技能を身につける (DP-2 ③、3 ③) ための科目

C群科目 (自由選択科目)

「言語教育科目 (選択)」、「スポーツ科学・健康科学科目」、「情報科学科目」、「AI 活用人材育成科目」、「グローバルスタディーズ科目」、「ライフデザイン科目」、「基盤・学際科目」、「教職教科等関連科目」

学生が各自の必要と興味に応じて自由に履修し、学習成果を補完あるいは拡張するための科目

(2016年度以降入学生用)

社会学部は、学位授与の方針（ディプロマポリシー）にもとづいて、A群科目（必修科目）、B群科目（選択必修科目）およびC群科目（自由選択科目）を系統的に配置する。

A群科目（必修科目）

「キリスト教科目」（キリスト教学A・B）

建学の精神に基づく態度を身につける（DP-1①）ための科目

「言語教育科目（必修）」

諸言語によるコミュニケーション・スキルを身につける（DP-3②）ための科目

「入門科目」（社会学入門A・B、社会調査入門A・B）

基礎的な社会学的知識、社会学的な視点と思考力（社会学的想像力）を身につけ（DP-2①②）、社会調査についての入門的な知識と技能を身につけるための科目（DP-2③、DP-3③）

「演習科目」（基礎演習A・B、インターメディエイト演習、研究演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、卒業論文）

社会・文化・人間への関心と生涯にわたる学習意欲を養う（DP-1②）とともに、継続的かつ主体的に学習するための汎用的技能を身につけ（DP-3①）（1年次の基礎演習A・Bおよび2年次春学期のインターメディエイト演習）、最終的に学士課程教育の集大成として、自ら課題を発見し、その課題を社会学的に分析・解決する能力を身につける（DP-4）（研究演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、卒業論文）ための科目

B群科目（選択必修科目）

「リサーチ・メソッド科目」

社会学、社会心理学、人類学、民俗学などの研究手法を理解し、基礎から応用まで段階的に知識と技能を身につける（DP-2③、3③）ための科目

「専攻分野科目」（現代社会学、データ社会学、フィールド社会学、フィールド文化学、メディア・コミュニケーション学、社会心理学の6専攻分野）

社会学を中心に、幅広くかつ系統的な知識と理解、社会問題についての知識と理解、グローバル化にともなう諸問題についての知識と理解などを身につける（DP-2①②）ための科目

C群科目（自由選択科目）

学生が各自の必要と興味に応じて自由に履修し、学習成果を補完あるいは拡張するための科目

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

https://www.kwansei.ac.jp/admissions/admissions_003734.html

（概要）

社会学部は、学士課程教育で培っていかうとする能力に応じて、以下の条件を満たしている者に広く門戸を開いています。

〔態度・関心〕

① 関西学院大学および社会学部の教育理念・教育内容を理解し、それに基づいて人間的に成長しようとする意志をもっていること。

② 社会・文化・人間について、そして現代社会のさまざまな現象や問題について基本的な関心を持ち、社会学を学ぶ意欲と見通しをもっていること。

〔知識・思考〕

① 高等学校で学ぶ基本的学科目について、優れた学力水準にあること。社会学を学ぶうえで、その基礎となる、歴史（日本史・世界史）、地理、政治・経済、現代社会に関する基本的な知識を身につけていること。

② 論理的かつ実証的な思考や判断の基礎となる、日本語（国語）、数学についても、十分な能力を身につけていること。

〔技能・表現〕

① 自分で情報を集め、自分で考え、それを表現するという経験をもっていること。

② 相手の考えを理解するとともに、自分の考えを表現するために必要な、日本語および英語（あるいは他の外国語）の基礎的な運用能力を身につけていること。

入学試験は、教科・科目に関する筆記試験を行う一般選抜入試と、面接等を探り入れた各種入学試験を行います。アドミッション・ポリシーが求める各要素（「態度・関心」「知識・思考」「技能・表現」）は、それぞれの入学試験において、重み付けを行い評価します。

学部等名 法学部

教育研究上の目的（公表方法）

https://www.kwansei.ac.jp/s_law/s_law_001227.html

（概要）

法学部では教育理念に「ソーシャル・アプローチ」を掲げています。

「ソーシャル・アプローチ」とは、H. F. ウッズウォース初代法文学部長の言葉です。その内容は、次の三点に要約することができます。

第一に、日本における法学教育が官僚養成という目的を帯びていたことに対して、民間の自由な精神に基づく教育・研究を目指すこと。

第二に、資格試験の準備教育や狭い意味での法解釈学に止まらず、広く深い社会的視野と教養を重視した教育・研究であること。

第三に、建学の精神にのっとり、社会への貢献、社会的弱者に目を向けさせる視点を重視した教育・研究であること。

すなわち、民間における自由の精神、広く深い社会的視野と教養、社会貢献（奉仕）の精神という三つです。

法学部では、キリスト教主義教育とこのソーシャル・アプローチの理念のもとに、良識を基礎に、幅広い社会的視野から論理的に物事を考察し、社会現象について深く洞察する力を育み、もって Mastery for Service を体現する市民を育成することを目的とする。

法律学科では、広く深い社会的視野と教養に根ざした法学の研究と教育を通じ、法と政治の基礎にある自由と人権、正義を重んじ、社会に奉仕する精神に富んだ有能にして心温かい市民を育成することを目的とする。

政治学科では、広く深い社会的視野と教養に根ざした政治学の研究と教育を通じ、法と政治の基礎にある自由と人権、正義を重んじ、社会に奉仕する精神に富んだ有能にして心温かい市民を育成することを目的とする。

これらの目的を実現するために、現今では、特に以下の5点を教育目標としています。

1) 科学的な思考方法の修得

対象を直観的・主観的ではなく、客観的・多面的に観察し、論理的に分析を進めていく方法を身につけること。

2) 広範な知識と社会的視野の獲得

法学・政治学の専門教育のみに止まらず、歴史学、哲学、心理学、社会学、経済学などの諸科学が明らかにしてきた広範な知識を身につけ、さらに広範な社会的現実常に目を向けられるようにすること。

3) 正しい価値観と豊かな人間性の形成

よりよい社会と人間の幸福の実現に向けて奉仕する精神を育み、自由と正義の実現を目指した明確な価値観を形成すること。

4) 人権感覚の陶冶

法と政治の基本的規範理念としての人権感覚を身につけること。

5) 国際的・地球的な視野の確保

本学の伝統を踏まえ、自由な精神に基づいて常に国際的・地球的な視野を身につけること。

これらの教育目標を、以下の実施目標として具体化しています。

■学生の多様な進路希望の実現に資する、高い社会的評価が得られる能力の習得

(ア) ロースクール進学希望者に対する教育の充実

(イ) 企業法務を希望する者に対する教育の充実

(ウ) 国際感覚を生かせる職業分野への進出の支援

(エ) 市民的公共を踏まえた政策形成人材の養成

■少人数教育による学生間・教員学生間での刺激に満ちた人格形成

卒業の認定に関する方針（公表方法：

https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000660.html#2

（概要）

法学部は、本学部設立以来の伝統である市民社会における自由な精神に則り、広く深い社会的視野と教養、及び社会貢献（奉仕）の精神の視点を重視するという「ソーシャル・アプローチ」の理念に基づき、法学・政治学の教育をつうじ社会に広く貢献できる人材を育成することを目的としてディプロマ・ポリシーを定める。所定の年限在学し所定の単位を修得し、下記の知識や能力あるいは技能などを習得したと認められる本学部生に、学士号を授与する。

1. **【関心・意欲】** 法学や政治学の視座から市民社会における自由の精神や基本的人権の重要性を理解し、社会に貢献しようとする関心と意欲を有する。
2. **【知識・理解】** 広い社会的視野と教養を有し、法学または政治学の専門的知識を修得している。
3. **【技能・表現】** グローバル化する市民生活に不可欠な実践的学習能力とスキルおよびコミュニケーション能力を有する。
4. **【思考・判断】** 課題発見・解決のための総合的思考力と判断力とともに、法律学科学生においては法的思考（リーガル・マインド）を、また政治学科学生は市民社会的思考（シヴィック・マインド）を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000660.html#2

（概要）

法学部は、ディプロマ・ポリシーに明記されている人材養成目標を達成するために、下記の重点項目を含むカリキュラムを編成し、これを実施する。

1. 市民社会における自由な精神、人権や社会奉仕の重要性を主体的に深く理解するとともに、広い学際的、国際的な視野を深めることのできる科目
 2. 専門的知識をコースごとに系統的に修得する科目
 3. 複数の言語によるコミュニケーション能力を習得し、多文化理解を促すことを目的とする科目
 4. 基礎的な学修技能を習得することができる科目
 5. 以上の科目により習得した知識や能力を活用して課題発見や解決策を考察・討議する、主に少人数での双方向的な演習科目
- 以上の5つを柱に、カリキュラムを編成し、実施する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

https://www.kwansei.ac.jp/admissions/admissions_003734.html

（概要）

法学部は、ソーシャル・アプローチの理念に基づき、広く深い社会的視野と教養に根ざした法学・政治学の研究と教育を通じ、法と政治の基礎にある自由と人権、正義を重んじ、社会に奉仕する精神に富んだ有能にして心温かい市民を育成することを目的としています。この目的を達成するために、（1）科学的な思考方法の習得、（2）広範な知識と社会的視野の獲得、（3）正しい価値観と豊かな人間性の形成、（4）人権感覚の陶冶、（5）国際的・地球的な視野の確保という教育目標を定め、①学生の多様な進路希望の実現に資する、高い社会的評価の得られる力の習得、②少人数教育による学生間・教員学生間での刺激に満ちた人格形成という実施目標を置いています。法学部は、こうした目的と目標に十分に応えることのできる学生として、基本とされる教科を着実に学習しているだけでなく、時代や場所を問わず、様々に生起する社会問題や社会現象に幅広く関心の持てる学生を受け入れることを方針としています。

入学試験ではこうした方針に基づいて、教科・科目を設定して筆記試験を中心とする一般選抜入学試験と、面接等を採用入れた各種入学試験を実施しています。高等学校における基礎学力の「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を、それぞれの入学試験において重み付けを行い評価しています。

学部等名 経済学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.kwansei.ac.jp/s_economics/s_economics_004073.html
（概要） 経済学部の教育目的は「倫理観と判断力を持った実践力のある人材」の育成である。経済学の専門的知識や現実経済の背景にあるさまざまな文化や伝達手段を身につけることを通じて社会に貢献し、その社会への貢献を通じて自分自身をも磨ける人間を育てる。学生の大半が民間企業へ就職するという状況の中で、経済学というツールを使って経済現象を的確に捉え分析し新聞の経済記事等を自在に読める人材、企業に求められる経済学という基盤を持った実践力を有した人材の育成を行う。
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000660.html#2
（概要） 【関心・意欲】 ・世界の様々な地域の人々や文化への共感する力を持っている。 ・他者と協力し、社会に貢献しようという意欲を持っている。 【知識・理解】 ・経済学の基本的な概念と理論的・歴史的な経済学的思考力を身につけている。 ・日本や世界の経済事情、歴史、言語や文化、そして宗教に関する基本的な知識を身につけている。 【技能・表現】 ・基本的な情報処理技術に基づいた、経済データ分析能力を備えている。 ・日本語および1つ以上の外国語の修得に基づいた、コミュニケーション能力を備えている。 【判断・問題解決】 ・経済学的思考力に基づいた、現実の社会や経済の事象についての判断能力を備えている。 ・現実の社会や経済のなかで課題を発見し、解決する能力を備えている。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000660.html#2
（概要） 経済学部は、経済学士を授与するにあたり、学生に求める 【関心・意欲】 、 【知識・理解】 、 【技能・表現】 、 【判断・問題解決】 を育むため、下記のカリキュラムを編成し、これを実施する。 【関心・意欲】 高等学校までの中等教育から大学からの高等教育へ繋ぐ導入教育科目、健康な心身を育み世界の様々な地域の人々や文化を学びそれへの共感を醸成するための言語教育科目を配置する。また、本学のキリスト教主義の礎となるキリスト教科目、学際・連携科目、および、経済学以外の様々な学問分野の基礎を学ぶ他学部開設専門教育科目から構成される総合教育科目を配置する。 【知識・理解】 日本や世界の経済事情、歴史、言語や文化、そして宗教に関する基本的な知識を身につけるための言語教育科目。また、本学のキリスト教主義の礎となるキリスト教科目、学際・連携科目、他学部開設専門教育科目を配置する。これらの幅広い基礎学力の上に、経済学の基本的な概念や経済・社会の歴史的視点を理解し、経済学的思考力を身につけるための「専門基礎科目」を配置する。これは、基礎、標準、応用へと経済学諸分野を発展的に学び、深めるために体系的に配置された基礎科目、入門科目、分析ツール科目からなる。この「専門基礎科目」の履修の上に、多くの学生が履修すべきコース標準科目、さらに発展的な学習を目指す、コース応用科目からなる「専門科

<p>目」を配置する。さらに、コースでの学習を相互に関連付けるコース関連科目を配置し、学生に体系的履修を促すための履修モデルを示す。</p> <p>【技能・表現】 情報処理を基礎とする経済統計やデータ分析能力を育む情報科学科目、分析ツール科目を配置し、また、母国語・外国語によるコミュニケーション能力を育む言語教育科目、中等教育から大学からの高等教育へ繋ぐ導入教育科目、少人数による研究演習科目も含む、コース関連科目を配置する。</p> <p>【判断・問題解決】 現代の複雑な経済・社会現象を理解し、直面する問題を発見しその解決のための判断能力を育み、学生が自らの生き方や仕事について考える機会をつくるライフデザイン科目を置く。また、コース標準科目、コース応用科目などの「専門科目」、さらには、これらの科目で得た経済学の専門的知識・理解を相互に関連付け考える力を涵養するための少人数による研究演習科目などを配置する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法： https://www.kwansei.ac.jp/admissions/admissions_003734.html</p>
<p>(概要) わが国を含め世界の政治・経済情勢は大きな変化の時代を迎えています。その一つに、貧困や環境の問題などが挙げられますが、その根本には経済問題があるのはいうまでもありません。今の時代に大学で経済学を学ぶ意義はきわめて大きいといえます。同時に、社会や世界の多様な文化や考え方の違いを認識することが大切だと言えます。まさに、激動の世界において活躍できる「世界市民」に求められる資質は、経済学の専門知識だけでなく幅の広い多様な知識としっかりとした価値観を持つことです。</p> <p>本学経済学部では、このような考えから、外国語の能力、社会や世界に対する知識、論理的な思考能力や判断能力が、これからのビジネスの世界や公的機関で働くために必要不可欠な基礎学力であると考えます。世界的な視点から社会のさまざまな出来事に関心を持ち、自分で考える人材を育てていきたいと考えております。その意味で、経済・社会の問題に関心があり、主体的に考えていく能力を身につけたいと思っている学生を求めます。</p> <p>以上の項目を募集方針の要素として、教科・科目を設定して筆記試験を中心とする一般選抜入学試験と、面接等を探り入れた各種入学試験を実施しています。高等学校における基礎学力の「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を、それぞれの入学試験において重み付けを行い評価しています。</p>
<p>学部等名 商学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法： https://www.kwansei.ac.jp/s_ba/s_ba_000964.html</p>
<p>(概要) 高度な専門知識と管理の技法、そしてグローバルに展開する現代経済・社会の理解に不可欠な総合的教養の修得、歴史的洞察力の涵養、言語やIT、企画・提案など幅広い分野にわたるコミュニケーション能力や意思決定能力の高度化を具体的な教育目的として掲げている。</p> <p>また、理論と実践との関連性を重視したカリキュラムの編成、さらに産業界との密接な連携の中で常に最新かつ高度な情報を提供することにより、ビジネスの第一線で活躍する人材、会計・税務など商学関連分野の専門職者を輩出することを目指している。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000660.html#2</p>
<p>(概要) 商学部は、「隣人・社会・世界に仕えるため、自らを鍛える」という内容を示す関西学院のスクールモットー“Mastery for Service（奉仕のための練達）”のもと、次の能力等を有する「真に創造的な能力を有するビジネスパーソンの育成（Fostering Creative Minds for Business）」を教育理念としている。</p> <p>【基本的意識と姿勢】</p>

・知識を修得する意欲と、それを社会への奉仕に生かそうとする意識と積極的な姿勢を有する。

【基本的思考と判断】

・現代社会のなかで企業などの経済主体が果たす役割、その行動原理と仕組み、そこで用いられる政策や管理方法とそれらが社会に及ぼす影響、経済主体の社会的責任・倫理の重要性などを体系的に把握・分析・理解する能力を有する。

・問題を発見し、問題の本質を問い、論理的考察と多面的総合的視点から社会的現象を的確に判断し行動する能力を有する。

【知識と技能】

・商学についての基礎知識と専門知識、総合的教養を修得し、高いコミュニケーション能力を有し、多元的社会のなかで機能や文化を異にする他の多くの主体との共生を図ろうとする意識と積極的な姿勢を有する。

このような教育理念に基づき、本学部は、学則に定められた期間在籍し、卒業に必要な単位数を修得した者に、学士（商学）を授与する。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000660.html#2

（概要）

商学部は、キリスト教主義による人間愛の精神を涵養し、一般教養による人格形成を図り、専門知識を身につけ国際化時代・情報化時代である今日の社会に貢献できるビジネスパーソンを養成するため、カリキュラムの編成に当たって、以下①～⑤の5本の柱を立てる。

①ビジネスパーソンとしての一般教養の修得

専門知識に偏らない一般教養やビジネスの背景的知識を提供する。

②ビジネスパーソンとしてのミニマム・コンピテンスの修得

ビジネス全般に関する基礎的知識を体系的に提供する。

③ビジネスパーソンとしての高度な専門知識の修得

ビジネスの各分野におけるスペシャリストとして意思決定能力・分析能力等を養うため、経営、会計、マーケティング、ファイナンス、ビジネス情報、国際ビジネスの6コースを設け、各分野の高度な専門的知識を体系的に提供する。

④ビジネスパーソンとしてのコミュニケーション能力の修得

学生・教員間の学問的・人格的な接触を通じて学習する演習型科目を提供する。

⑤ビジネスパーソンとしての外国語能力の修得

外国語をツールとしてビジネスを学習する機会を提供する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

https://www.kwansei.ac.jp/admissions/admissions_003734.html

（概要）

商学部の教育理念・目的は、“Mastery for Service（奉仕のための練達）”というスクールモットーに基づいて、「真に創造的な能力を有するビジネスパーソン」を育成することにあります。すなわち、幅広い関心と鋭い問題意識を有し、さまざまな領域でその能力を十分に発揮できる人材を、社会に送り出すことにあります。本学部は、この教育理念・目的に基づき、人間性を向上させる意欲に満ちあふれた、多様な適性と能力を有する学生を受け入れたいと考えています。

以上の項目を募集方針の要素として、教科・科目を設定して筆記試験を中心とする一般選抜入学試験と、面接等を取り入れた各種入学試験を実施しています。高等学校における基礎学力の「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」をそれぞれの入学試験において重み付けを行い評価しています。

学部等名 理工学部

教育研究上の目的（公表方法：

<https://sci-tech.ksc.kwansei.ac.jp/ja/modules/about/index.php?id=22>

<p>(概要)</p> <p>1. 自然科学・科学技術の幅広い分野にわたり、基礎的研究を中心におきながら応用も視野に入れ、それぞれの分野が相互に緊密な連携を保ちながら常に先端的でレベルの高い研究を行う。</p> <p>2. しっかりとした自然科学の基礎知識と能力を身につけ、基礎を応用に繋げていくことが出来る柔軟な思考力を養い、未知の問題を発見していく能力と、その未知の問題に果敢に挑戦し、解決していくことが出来る能力に優れた、創造性に溢れた人材を育成する。</p> <p>3. 自然科学・科学技術の知識と能力とともに、幅広い教養を養い、キリスト教主義教育で培われた豊かな人間性と倫理観を備えた人材を育てる。</p> <p>4. 社会との強い繋がりを絶えず念頭に置き、自然科学を通して社会に大きなインパクトを与え、また、その技術的応用を通して、人類の進歩に寄与することが出来る教育と研究ならびに人材の育成を行う。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000660.html#2</p>
<p>(概要)</p> <p>関西学院のめざす人間像である「Mastery for Service」を体現する世界市民」を育成するために、自然科学の基本原則とその応用について教育と研究を行い、自然科学・科学技術と建学の精神であるキリスト教主義を基盤において人類の進歩に貢献する理工学部理念の下、理工学部の学生が卒業時に身につけておくべき知識・能力を次のとおり定める。</p> <p>1. [関心・意欲・態度] 自律的な態度と社会に貢献しようとする姿勢</p> <p>(1) 自らを律する強さと高い倫理観を持ち、他者と協力してよりよい人間関係や社会を築くための基本的な態度を身につけている。</p> <p>(2) 自然科学・科学技術と社会、文化、人間との関係に深い関心を抱き、自然科学・科学技術の発展を通じて、人類の進歩に貢献しようとする意欲を持っている。</p> <p>2. [知識・理解] 幅広い知識と深い専門性</p> <p>(1) 社会、文化、人間、自然科学・科学技術についての幅広い知識と、多角的な視点を身につけている。</p> <p>(2) 専攻分野における基礎知識を体系的・構造的に理解している。</p> <p>(3) 専攻分野における基礎的な技能を修得している。</p> <p>(4) 基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識、および柔軟な思考力を有している。</p> <p>(5) 社会、文化、人間等との様々な関係において、専門分野の学問的・技術的発展が持つ意義を理解している。</p> <p>3. [技能・表現] 実践的な学習技能とコミュニケーション力</p> <p>(1) 論理的思考力、情報収集力、データ分析力、表現力及びコンピュータとネットワークを活用する能力を身につけている。</p> <p>(2) 日本語および英語によって、コミュニケーションできる力を身につけている。</p> <p>4. [思考・判断] 課題解決のための総合的思考・判断力</p> <p>現代社会における問題に取り組むための、課題発見力、創造的思考力および課題解決能力を身につけている。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000660.html#2</p>
<p>(概要)</p> <p>理工学部における授業科目を、総合教育科目と専門教育科目に大別する。総合教育科目はキリスト教科目、言語教育科目、自由選択科目にて構成し、専門教育科目は各学科専門の基礎的科目、発展的科目、実験・演習科目、卒業研究科目（数理科学科は特別演習）、自由選択科目にて構成する。各科目群については理工学部ディプロマ・ポリシーに沿う形で以下の方針をもって実施する。</p>

[総合教育科目]

「キリスト教科目」

初年次に担当し、本学の建学の精神であるキリスト教主義にもとづく人間形成によって、自らを律する強さ、倫理観、他者との協調性などの基本的な態度を身につけさせる。

「言語教育科目」

自然科学・科学技術分野における共通言語である英語を低学年次に担当する。自ら情報発信できるよう、総合的な英語コミュニケーション能力を修得させる。

「自由選択科目」

社会、文化、人間、自然科学・科学技術について、幅広い教養と視野を身につけさせる。

[専門教育科目]

「基礎的科目」

主に低学年次に担当し、各専攻分野における基礎知識を講義等を通じて修得させる。

「発展的科目」

主に高学年次に担当し、基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識を講義等を通じて修得させる。

「実験・演習科目」

各専攻分野における基礎的な技能、コンピュータを活用する技能、および基礎知識を体系的・構造的に理解し論理的に思考する力を実験・演習・実習を通じて修得させる。

「卒業研究科目（数理科学科は特別演習）」

4年次に担当し、各専攻分野の学問的・技術的発展が社会、文化、人間等との様々な関連において持つ意味を理解させた上で、取り組むための課題を発見させ、これまでに培ったコミュニケーション力・知識・技能を用いて課題解決に向けて意欲的に取り組ませることにより、現代社会における問題解決力を修得させる。

「自由選択科目」

主に専攻分野以外の自然科学・科学技術などについて、幅広い教養と視野を養成し、各専攻分野の伸展となる知識を修得させる。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

https://www.kwansei.ac.jp/admissions/admissions_003734.html

（概要）

自然科学の基本原則とその応用について教育と研究を行い、自然科学・科学技術と建学の精神であるキリスト教主義教育を基盤において人類の進歩に貢献する理工学部理念の下、次のような学生の入学を期待します。

<理工学部が求める学生像>

・自然科学・科学技術の発展を通じて、自律的な態度をもって人類の進歩に貢献しようとする学生

・理数系科目の十分な学力を有し、自然科学・科学技術分野の体系的な知識・技能を高い意欲をもって修得しようとする学生

・人文・社会系科目の基礎学力を有し、多角的な視点を意欲的に身につけようとする学生

・日本語および英語の基礎学力を有し、その学力を基に文章読解・作成、コミュニケーション能力の向上に努める学生

以上の求める学生像に基づいて、教科・科目を設定して筆記試験を中心とする一般選抜入学試験と、面接等を探り入れた各種入学試験を実施します。高等学校における学力の3要素である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を、それぞれの入学試験において重み付けを行い評価します。

<p>学部等名 総合政策学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法： https://www.kwansei.ac.jp/s_policy/s_policy_009382.html</p>
<p>（概要）</p> <p>総合政策学部は、「自然と人間の共生、人間と人間の共生」という理念の下で、複雑かつ高度化した現代社会に潜む諸問題を発見し、問題解決および政策立案能力を持った人材を養成することを目的としています。</p> <p>そのために、総合政策学部はヒューマン・エコロジーを視座とし、政治学、経済学、社会学、経営学、法学、工学、理学、言語、文化、思想といった個別的学問領域を横断的かつ重層的に構造化した教育課程を編成して、“ThinkGlobally.ActLocally.”をモットーとした総合的かつ専門的な教育研究を行います。</p> <p>総合政策学科</p> <p>総合政策学部の理念である「自然と人間の共生、人間と人間の共生」についての基本的理解を深め、技術的環境の変化とマクロな社会変化に対応できる総合的な視野、問題解決能力、政策立案能力を持つとともに、「ThinkGlobally.ActLocally.」をモットーとして地球規模で自然・文化・社会環境を維持発展させ、国際社会に貢献できる人材を養成します。そのために、「環境政策フィールド」、「公共政策フィールド」、「言語文化政策フィールド」という3つの専攻フィールドを設け、総合的かつ専門的な教育研究を行います。</p> <p>メディア情報学科</p> <p>デジタル・ネットワークを基盤とする豊かな社会を築くため、日々進歩する情報通信技術と情報メディアの本質を理解した上で、それらのあり方についての問題を人間重視の視点から先見性を持って見出します。そこで発見された問題を、フィールド調査や数理的分析などにより考察し、次に問題解決の政策案を作成し、さらにそれらを映像表現を含む多様なメディアを活用したコンテンツとして社会に発信することができる人材を育成します。</p> <p>都市政策学科</p> <p>都市空間・環境の制御技術とともに社会開発政策や都市経営政策に関する知識と能力を持ち、両者を有機的に統合しながら多様な都市問題の解決を行うことのできる人材、言い換えれば、総合的かつ専門的な見地から都市政策をデザインし、都市マネジメントを構想・実行できる人材を養成します。そのために、快適な都市空間を創造する技術（都市デザイン）と持続可能な都市経営の施策（都市マネジメント）という2つの領域に関する総合的かつ専門的な教育研究を行います。</p> <p>国際政策学科</p> <p>国連が掲げる平和構築、国際発展と開発、人権の擁護といった国際社会の諸課題に対して、総合的かつ専門的な見地から政策を構想・立案し、実践的な問題解決能力を備えた人材を養成します。そのために、「国際社会における平和構築」、「国際発展と開発」、「国際人権レジームの拡大と擁護」という3つの政策課題に関して理論と実践の双方の視点から総合的かつ専門的な教育研究を行います。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000660.html#2</p>
<p>（概要）</p> <p>総合政策学部はより良い未来を実現するため、「自然と人間の共生ならびに人間と人間の共生」の理念を理解し、その実現を通じて、社会の持続的発展に資する人材の育成を目標とします。</p> <p>この目標を実現するための教育として、まず、人が生きていく場としての「環境」、維持すべき社会としての「公共」、ならびに思考がよって立つ「言語・文化」に関わる政策を基礎とします。そして、さらに現代社会の危機と可能性を踏まえて、経済・社会活動の場として重要性を増す「都市」、相互影響と関係性がさらに深まり</p>

つつある「国際」、そして急速な技術革新のもとで社会を変革しつつある表現手段としての「メディア」に関わる政策に着目します。

学生は、これらの様々な課題に対してグローバルな視点から考え、実行可能な対策を立案・実践できる専門力と総合力を備えた人材としての教育を受けます。そして、それぞれの問題意識と将来の夢に従い、本学部での多様な学びと経験を自らの力とし、より良い社会の実現のために、その力を生かしていくことが期待されます。こうしたポリシーにもとづき、学士（総合政策）の学位は、共生の実現と社会の持続的発展に関わる政策の立案、実行に必要な以下にあげる基礎的能力を有する者に授与されます。

- ・「自然と人間の共生ならびに人間と人間の共生」をめざし、グローバルな視点から現代の地球社会の問題を発見する能力（問題発見能力）を習得し、さらに学問的な態度でこれらの問題を解決できる能力（問題解決能力）。

- ・自然科学・社会科学等の複数の学問分野にまたがる基礎的な知識（学際性）と問題を科学的に分析する力を身につけることで、社会や自然における複合的で複雑な諸問題を理解し、具体的な政策を構想できる能力（総合力）。

- ・フィールドワークをとおして現実の社会において人々と共に実際の諸問題を分析発見し（実学性）、さらにそれらを克服する政策を構想し実践できる能力（実践力）。

- ・政策実現にあたって必要となる様々な文化や価値観を理解し交流できる能力（コミュニケーション力）と自己の考えを発信できる能力（プレゼンテーション力）

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法）：

https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000660.html#2

（概要）

<基本ポリシー>

(1) キリスト教の文化・思想に基づく建学の精神を理解し、「仕えられるためではなく仕えるために」という理念のもとで個々の人間性を涵養するとともに、世界への広い視野を身につけます。

(2) 学びの起点

「自然と人間の共生ならびに人間と人間の共生」、「Think Globally Act Locally」という学部の基本理念を深く理解し、実践する力を養います。

(3) 広範で総合的な知識の獲得と政策分析力の形成

総合政策に関連する幅広い知識を習得し、多角的視野から社会の問題を俯瞰する力を養うため、学科の枠を越えて履修できる多様な専門科目を提供します。社会科学、人文科学、自然科学に関する知識を広げるとともに、どの専門分野でも必要な、データの科学的活用技術を習得し、各所属学科の目的と興味に応じた専門性と、学際性の両立をめざします。これらをもとに、各分野における政策あるいは計画の分析・立案能力の形成をめざします。

(4) 各分野における実務的専門的技術の獲得

各学科、各分野における必要にして十分な専門科目を開講します。学内での講義や演習科目だけではなく、プロジェクト・ベースド・ラーニングやハンズオン・ラーニングを意識したフィールドワークも用意して、現場体験を通じた学びの動機付けを行います。また、外部の研究者や実務家等を招聘して、全学部生を対象とする公開講座（学部研究会と呼んでいます）も実施します。さらに専門性を高めるために、さまざまな資格取得が可能なプログラムも提供します。

(5) 語学力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力の涵養

英語や諸外国語で発信される様々な情報を収集、理解するとともに、自らの考えや思いを口頭や文章、映像等での確に伝える実践的な力を習得します。そのために、英語のネイティブスピーカーによる少人数制の英語教育を推進します。留学生は同様の趣旨で、日本語科目を学びます。また、ICTを柔軟に活用した情報収集・分析・発信技術を学び、数理的思考やデータ分析の基本も習得します。これらの成果を大勢の前でプレゼンテーションする機会を学部行事として実施します。

(6) 諸分野における課題発見能力と自発的な研究推進およびこれを取りまとめる能力の形成
学生自らが研究課題を発見、遂行、とりまとめる能力を形成するために、ゼミでの少人数教育
を基本として、進級論文や卒業論文、卒業制作等の指導を通じてアカデミックスキルの向上
をめざします。またその成果を発表する機会を設け、プレゼンテーション能力やディスカッショ
ンのスキルも磨きます。

<4年間のカリキュラムの流れ>

(1) 1年次にはキリスト教教育および総合政策の基本理念を学ぶ他、各学科の専門的な内容
を知るための学科入門科目があります。また、少人数での英語教育とコンピュータ演習他、い
くつかの必修科目を設けます。学生はこれらの科目の履修を通し、各自の学習目標と専門領
域を検討し、1年次の終わりに学科を選択します。

(2) 2年次以降は4つの学科に分属し、それぞれの視点から現代社会の諸課題を理解し、専
門的な学びを開始します。学科ごとに必修科目を用意するとともに、引き続き英語能力の上
達をめざす少人数科目を提供します。なお、一級建築士の資格修得を目指す建築士プログ
ラムも2年次から始まります。

(3) 3、4年次では、学生は全員いずれかのゼミに配属され、教員との議論や実践的なフィ
ールドワーク、ハンズオン・ラーニング等を通して、専門性をさらに深めます。また一級建築士や
各種教職以外にも各種資格取得に必要な科目を提供します。

(4) 上記を踏まえて、各学科では次のような教育課程の編成・実施方針を定めます。

総合政策学科では、広範で多様な知識と政策の理論を学びつつ、それらを環境政策・公
共政策・言語文化政策の3つのフィールドで現実の政策に応用していくための専門知識・技
能・態度を修得する科目群を設置しています。

メディア情報学科では、人間を中心に据えた情報技術や社会のあり方を総合的に考え、
情報技術を通じて実現するため情報社会政策、メディアと情報通信技術に関する専門知識・
技能・態度を習得する科目群を設置しています。

都市政策学科では、快適で安全な都市空間をデザインするための基本的な考え方とそれ
を実現するための設計技術、都市空間を適切にマネージするための都市経営政策など、都
市空間を計画・創造・運営するための専門的知識・技法・態度を習得する科目群を設置して
います。

国際政策学科では、国際機関や多国籍企業などグローバルレベルで活躍できる人材の育
成を目指し、グローバルな視点からの政策を立案し、分析するための専門知識・技能・態度
を習得する科目群を設置しています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

https://www.kwansei.ac.jp/admissions/admissions_003734.html

（概要）

総合政策学部が教育研究の目的としている、現代社会の諸問題に的確に対応できる人材
を養成するため、必要となる基礎的学力を有することを前提としつつ、資質の異なる多様
な学生を受け入れる1ことにより、相互に刺激しあい学びあう教育研究環境の場を整えま
す。入学に必要な基礎的学力としては、文理の幅広い学びとともに、入学後の教育に
対応できる一定の外国語運用能力を有していることが望まれます。また学生の資質とし
ては、特に社会への幅広い関心と考える力、主体性をもって多様な人々と協働し学ぶこと
ができることが求められます。学生は入学後、入学前の基礎的知識のうえに本学部の理念
である共生への理解を深め、各自が関心をもつ専門領域において必要となる能力を身に着
けるとともに、異なる専門領域についても幅広い学びを探究することが期待されます。

以上の項目を募集方針の要素として、教科・科目を設定して筆記試験を中心とする一般
選抜入学試験と、面接等を探り入れた各種入学試験を実施しています。高等学校における
基礎学力の「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を、そ
れぞれの入学試験において重み付けを行い評価しています。

学部等名 人間福祉学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www.kwansei.ac.jp/s_hws/s_hws_000095.html
<p>（概要）</p> <p>教育課程は、上のような設立理念を实践できる専門家として、あるいは一市民として貢献していく人材の養成のために、豊かな「人への思いやり（compassion）」の涵養、柔軟で包括的な「幅広い視野（comprehensiveness）」の育成、そして様々な社会福祉学的あるいは健康科学的な課題に対してソリューションを導き出す「高度な問題解決能力（competence）」を育むことを意図して組み立てられている。本学の教育課程におけるキーワードは、「人間」と「社会」とその「交互作用」、そして「3つのC」、ということになる。</p> <p>人間福祉学部は、「社会福祉学科」、「社会起業学科」及び「人間科学科」からなり、それぞれの学科の特色に合わせた学科専門教育を提供している。</p> <p>社会福祉学科</p> <p>「関学社会福祉」の伝統を生かし、ソーシャルワーク・マインドを持って地域社会や国際社会で活躍できる人材を育成する。子ども、高齢者、障害を持つ人々への支援をはじめ、幅広い社会福祉領域を網羅する科目を配し、「理論」と「実践」を両輪で学ぶことで現場に生きる知識と技術を修得できるよう、実践的なカリキュラムを整備している。</p> <p>社会起業学科</p> <p>国際化や多様化が進む現代社会では、グローバルな基準で有効な知識や実践力を身につけることが不可欠になる。社会起業という観点で地域社会や国際社会における「人間の福祉」に貢献するための発想力や、柔軟で不屈の実践力を習得できるように、フィールドワークなどの実践的なカリキュラムが準備されており、「社会貢献のための現実に即した学び」が可能となっている。</p> <p>人間科学科</p> <p>人間科学科では「こころ」と「身体」の両面から人間を深く理解することを目指す。死生学・スピリチュアリティを中心とした学問分野、身体運動科学・身体パフォーマンスを中心とした学問分野の2領域から統合的に学習する。スポーツ指導・支援者をはじめ身体や心を病む人や悲しみに寄り添えるものとして、人に関わり支援できる人材を育成する。</p>
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000660.html#2
<p>（概要）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大学生にふさわしい基礎力を身につけている 2. 人間と社会とその交互作用に関する基本的知識を身につけている 3. 人間の生活課題を共感的に理解し、幅広い視野から実践的な解決法を考えることができる 4. 社会福祉学科の学生は、社会福祉学に関する専門的知識を身につけ、社会福祉課題の解決に関与し貢献できる 5. 社会起業学科の学生は、社会起業に関する専門的知識を身につけ、グローバルな市民社会の建設に関与し貢献できる 6. 人間科学科の学生は、人間科学に関する専門的知識を身につけ、質の高い生活と社会の実現に貢献できる
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000660.html#2

(概要)

(2011年度以前入学生用)

1. 大学生にふさわしい基礎力の修得 (キリスト教教育科目/言語教育科目/教養教育科目)

- (1) キリスト教に関する基礎的知識と社会貢献の態度を身につけている
- (2) 人間と社会に関する教養を身につけている
- (3) 英語で情報を収集し、個人や社会に向けて発信することができる
- (4) 外国語または日本手話に関する基礎的知識を身につけ、基本的なコミュニケーションができる
- (5) 多様な文化に関心を持ち、それを理解する態度を身につけている
- (6) ワードプロ、表計算、プレゼンテーション用PCソフトを用いることができる
- (7) 文献、統計、資料などの検索と読解のための基礎力を身につけている
- (8) レポートを書き、プレゼンテーションをすることができる
- (9) ディスカッションに参加し、自分の意見を述べる事ができる

2. 人間福祉学部の共通基盤に関する知識・技能・態度の修得 (専門共通科目)

- (1) 人間と社会とその相互作用について理解している
- (2) 人間性と社会連帯に関する関心と課題解決への意欲をもっている
- (3) 人間社会の多様性を広い視野から理解している
- (4) 社会福祉とソーシャルワークに関する基礎的知識を身につけている
- (5) 近代的な社会制度に関する基礎的知識を身につけている
- (6) 「こころ (スピリチュアリティ) と身体」の両面から人間を理解する態度とそのための基礎的知識を身につけている

3. 社会福祉学に関する専門的知識・技能・態度の修得 (社会福祉学科専門科目)

- (1) 日本および世界の社会福祉の歴史と理念を理解している
- (2) 日本の社会福祉および社会保障制度の概要を理解している
- (3) ソーシャルワークの理論と実践について、基本的な知識、技能及び態度を身につけている
- (4) 専門ソーシャルワークの理論と実践について発展的な知識、技能及び態度を身につけている
- (5) ソーシャルワークに関連する専門分野について基礎的知識を身につけている
- (6) 社会福祉およびソーシャルワークの視点で、社会現象をとらえることができる
- (7) 社会福祉学の研究課題に関して、資料を検索し、課題を整理し、調査または実践を計画し、調査または実践結果の分析をおこない、レポートまたは論文が書ける

4. 社会起業に関する専門的知識・技能・態度の修得 (社会起業学科専門科目)

- (1) 多様な社会的課題に対する理解と認識を身につけている
- (2) グローバルな視点について理解している
- (3) 社会的課題に対するさまざまな取り組みに関する知識と方法について理解している
- (4) 社会起業の理念に関する基本的知識を理解している
- (5) 社会起業の基本的概念を理解している
- (6) 社会起業の実践のための専門的な知識、技法、経験及び態度を身につけている
- (7) 社会起業に関連する専門分野についての基礎的知識を身につけている
- (8) 社会起業の研究課題を発見し、情報収集し、分析する能力を身につけている

5. 人間科学に関する専門的知識・技能・態度の修得 (人間科学科専門科目)

- (1) 「こころ (スピリチュアリティ) と身体」の両面から人間を理解する態度とそのための専門的知識を身につけている
- (2) 人間のライフコースの各段階 (乳・幼児、少年期、青年期、成人期、壮年期、高齢期) における課題や理論について「こころ (スピリチュアリティ) と身体」の両面から理解している

- (3) 人間の生き方やいのちについて、広い視野から理解している
- (4) こころ（スピリチュアリティ）についての専門的知識と援助技術を身につけている
- (5) 身体に関わる科学的専門知識と技術を身につけている
- (6) 人間科学の研究課題に関する実験、測定、調査、あるいは実践を行い、レポートまたは論文が書ける

6. 学科の専門性と関連する領域における発展的な知識、技能、態度の修得（関連共通科目）

- (1) 他学科・他学部科目の中から自己の専門性と関連する科目を見つけて自ら学びを計画できる
- (2) 他学科・他学部科目を活用して自分の専門性を発展させることができる

（2012年度以降入学生用）

1. 大学生にふさわしい基礎力の修得（キリスト教教育科目／言語教育科目／教養教育科目）

- (1) キリスト教に関する基礎的知識と社会貢献の態度を身につけている
- (2) 人間と社会に関する教養を身につけている
- (3) 英語で情報を収集し、個人や社会に向けて発信することができる
- (4) 外国語または日本手話に関する基礎的知識を身につけ、基本的なコミュニケーションができる
- (5) 多様な文化に関心を持ち、それを理解する態度を身につけている
- (6) ワードプロ、表計算、プレゼンテーション用PCソフトを用いることができる
- (7) 文献、統計、資料などの検索と読解のための基礎力を身につけている
- (8) レポートを書き、プレゼンテーションをすることができる
- (9) ディスカッションに参加し、自分の意見を述べるすることができる

2. 社会福祉学に関する専門的知識・技能・態度の修得（社会福祉学科専門教育科目）

- (1) 人間と社会とその相互作用についての基礎的知識と課題解決への意欲を身につけている
- (2) 日本および世界の社会福祉の歴史と理念を理解している
- (3) 日本の社会福祉および社会保障制度の概要を理解している
- (4) ソーシャルワークの理論と実践について、基本的な知識、技能及び態度を身につけている
- (5) 専門ソーシャルワークの理論と実践について発展的な知識、技能及び態度を身につけている
- (6) ソーシャルワークに関連する専門分野について基礎的知識を身につけている
- (7) 社会福祉およびソーシャルワークの視点で生活課題および心理社会的現象をとらえ、関連領域の視点も活用しながら実践方法を考えることができる

3. 社会起業に関する専門的知識・技能・態度の修得（社会起業学科専門教育科目）

- (1) 人間と社会とその相互作用についての基礎的知識と課題解決への意欲を身につけている
- (2) 多様な社会的課題に対する理解と認識を身につけている
- (3) グローバルな視点を身につけている
- (4) 社会的課題に対するさまざまな取り組みに関する知識と方法について理解している
- (5) 社会起業の理念に関する基本的知識を理解している
- (6) 社会起業の基本的概念を理解している
- (7) 社会起業の実践のための専門的な知識、技法、経験及び態度を身につけている
- (8) 社会起業に関連する専門分野についての基礎的知識を身につけている

(9) 社会起業に関する情報の収集と活用に必要な知識、技法、経験を身につけている。

4. 人間科学に関する専門的知識・技能・態度の修得（人間科学科専門教育科目）

(1) 人間と社会とその相互作用についての基礎的知識と課題解決への意欲を身につけている

(2) 「こころ（スピリチュアリティ）と身体」の両面から人間を理解する態度とそのための専門的知識を身につけている

(3) 人間のライフコースの各段階（乳・幼児、少年期、青年期、成人期、壮年期、高齢期）における課題や理論について「こころ（スピリチュアリティ）と身体」の両面から理解している

(4) 人間の生き方やいのちについて、広い視野から理解している

(5) こころ（スピリチュアリティ）についての専門的知識と援助技術を身につけている

(6) 身体に関わる科学的専門知識と技術を身につけている

5. 学科の研究課題に関する研究実施能力の修得（研究演習・卒業研究）

(1) 学科の研究課題に関して、資料を収集し、実験、測定、調査、実践を行い、分析する能力を身につけている

(2) 学科の研究課題に関して、レポートまたは論文が書ける

6. 学科の専門性と関連する領域における発展的な知識、技能、態度の修得（自由選択科目）

(1) 総合教育科目・専門教育科目・全学科目・他学部科目の中から自己の専門性と関連する科目を見つけて自ら学びを計画できる

(2) 総合教育科目・専門教育科目・全学科目・他学部科目を活用して自分の専門性を発展させることができる

入学者の受入れに関する方針（公表方法）：

https://www.kwansei.ac.jp/admissions/admissions_003734.html

（概要）

人間福祉学部では、人間とその生活環境としての社会、そして両者の交互作用を全体的に捉えながら、「質の高い生活と社会」の実現に向けて貢献できる人材の育成を目指します。そのための基本理念として「3つのC」、すなわち「人への思いやり（Compassion）」、「幅広い視野（Comprehensiveness）」、「高度な問題解決能力（Competence）」をすべての学科に共通するキー・コンセプトとして位置づけています。

一般選抜入試ではこの理念や教育プログラムにふさわしい生徒を確保するために、「高校において基本とするような科目全体について一定の学力を持っているか、特に言語的能力があり理解力や論述力に優れているか、あるいは特に数理的な能力に優れているか」との観点から試験を実施します。

なお、本学部の入学にあたって、社会福祉学科は、「社会福祉にかかわる分野での職業選択を希望しているかその分野に理解がある」ことが、社会起業学科は、「社会起業に関心があり、国内外での社会貢献活動をめざしているかそのような分野に理解がある」ことが、人間科学科は、「死生学・生命倫理学・悲嘆学などのこころ（スピリチュアリティ）に関する学問に関心があるか、身体（スポーツ・健康）に関連する分野に関心があり、それぞれの分野での職業選択を希望しているかそれらの分野に理解がある」ことが求められます。

以上の項目を募集方針の要素として、教科・科目を設定して筆記試験を中心とする一般選抜入学試験と、面接等を採用入れた各種入学試験を実施しています。高等学校における基礎学力の「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を、それぞれの入学試験において重み付けを行い評価しています。

学部等名 教育学部
<p>教育研究上の目的（公表方法： https://www.kwansei.ac.jp/s_education/s_education_006454.html</p>
<p>（概要） 教育学部は、関西学院大学の理念であるキリスト教主義に基づく人格の陶冶を踏まえ、その教育のキーコンセプトとして「実践力」、「教育力」、「人間力」を据える。「実践力」とは、幅広い教育現場で、強い情熱、子どもへの愛情、優れた指導力を持って、実践にあたることのできる資質である。「教育力」とは、高い使命感と確かな知識と力量を持って、子どもへの教育と支援ができる資質である。「人間力」とは、総合的な判断力と視野の広さ、思慮深さ、豊かな人間性と人権意識、さらに豊かなコミュニケーション能力を持ち、それらを実践に役立たせることのできる資質である。こうした3つの「力」を持ち、「子ども理解」を基礎に現代の複雑で困難な教育問題に向き合うことのできる「教育者」を育てることを教育学部の教育研究の目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000660.html#2</p>
<p>（概要） （2012年度以前入学生用） 1. 「子ども理解」を深めている。 「子ども理解」とは乳幼児期から児童期・青年期までの子どもの発達を体系的に理解し、乳幼児教育・学校教育・幅広い社会の教育活動や実践を理解していることである。 2. 「実践力」を身につけている。 「実践力」とは幅広い教育現場で、強い情熱、子どもへの愛情、優れた実践にあたることのできる資質である。 3. 「教育力」を身につけている。 「教育力」とは高い使命感と確かな知識と力量を持って、子どもへの支援ができる資質である。 4. 「人間力」を身につけている。 「人間力」とは総合的な判断力と視野の広さ、思慮深さ、豊かな人権意識、さらに豊かなコミュニケーション能力を持ち、それらを実践に役立たせることのできる資質である。 5. 幼児・初等教育学科の学生は、「子ども理解」を基本理念として、知的な教授・学習に加えて、心の側面を含めた全人的人間理解を持って教育を行うことができる。 6. 臨床教育学科の学生は、「子ども理解」の基礎となる教育学（教育人間学、教育方法学、教育社会学）の知識と方法に教育相談と特別支援教育の知識と技術を加え、子ども、保護者、教師への支援の在り方を理解し、理論と方法を統合しつつ問題にかかわることができる。</p> <p>（2013年度以降入学生用） 【関心・意欲・態度】 ① 自らを律する主体としての強さを身につけ、他者と協力してよりよい人間関係や社会を築くための基本的な態度を身に付けている ② 教育に対する強い情熱や子どもへの愛情をもった態度で、幅広い教育現場で実践に臨むことができる</p> <p>【思考・判断】 ① 幅広い教養に基づいた判断力と広い視野を持っている ② 専門的知識の習得や他者との学び合いから思考を発展させることができる ③ 人権意識をもった行動ができる</p> <p>【技能・表現】</p>

- ① 子どもや教育に関する課題を発見し、取り組み、解決できる
- ② 専門性の能力を活用して子どもへの教育と支援ができる
- ③ 日本語や外国語を用いて他者と円滑にコミュニケーションできる力を身に付けている (KG学士力を参考)

【知識・理解】

- ① 乳幼児期から児童期・青年期までの子どもの発達を体系的に理解している
- ② 乳幼児教育・学校教育・幅広い社会の教育活動や実践を理解している

教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 :

https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000660.html#2

(概要)

(2012年度以前入学生用)

教育学部は、総合教育科目と専門教育科目をおく。総合教育科目は、キリスト教科目、言語教育科目、情報科学科目、教養教育科目から構成される。専門教育科目は、学部共通専門教育科目、幼児・初等教育学科専門教育科目 (学科共通専門教育科目、幼児教育コース専門教育科目、初等教育コース専門教育科目)、臨床教育学科専門教育科目 (臨床教育学コア科目、教職関連科目) から構成される。

1. 「子ども理解」については、学部共通専門教育科目において、教育、保育、子ども文化など幅広い視野で、子どもの総合的な理解を目指す。
2. 「実践力」については、実習科目を重視し1年次から4年次まで各種の実習を行う。
3. 「教育力」については、各教科教育法や保育内容、教育相談や特別支援教育にかかわる科目などを開講することによってその養成をはかる。
4. 「人間力」については、主に「総合教育科目」及び少人数による各種の演習を通して、問題解決能力や人間関係にかかわる資質能力の育成をはかり、総合的な判断力を培うことを目標とする。
5. 国際的な連携や異文化理解に関する科目を開講し、国際的な視野を持った「教育者」の養成を目指す。
6. 幼児・初等教育学科のカリキュラムは、「子ども理解」を基礎においた教育学の基本的な領域の科目、教員・保育士養成の内容領域の科目、及び各種の実習を設け、「実践力」、「教育力」それに「人間力」を兼ね備えた教員・保育士を養成すべく編成されている。また、教員・保育士を目指さない学生にとっても、「子ども理解」を核としたカリキュラムを履修することで、広く社会で子どもを育てる活動にかかわり、またそうした活動を支援できる知識と技術を身につけることができる。
7. 臨床教育学科のカリキュラムは、教育学の基本科目群と、教育相談、特別支援教育に関する実践的科目群、加えて、これらの科目群双方にかかわる、教育調査法と実習科目を配置し、教育活動における問題解決の方法や支援の在り方を教育学の臨床場面として捉え、教育学と臨床心理学双方のアプローチによる理論と方法を統合しつつ問題にかかわることができる「教育者」を育成すべく編成されている。

(2013年度以降入学生用)

教育学部は、学部の教育目標を達成するために学位授与の方針 (DP) に基づいた科目群を系統的に配置している。専門教育科目には、教員免許・保育士資格取得のために、免許・資格取得に必要な科目を配置している。

総合教育科目

【キリスト教科目】

建学の精神の前提となるキリスト教についての概括的な理解を与え、また、宗教性を背景とする人間とその広範な営みとしての文化の在り方についての深い洞察力をもた

せるための科目

【言語教育科目】

外国語によるコミュニケーション能力を育成するための科目

【情報科学科目】

コンピュータ・リテラシーの基礎を学ぶための科目

【教養教育科目】

教育学研究の基礎となる幅広い教養と知識を身につけるための科目

専門教育科目

【学部共通専門教育科目】

基礎演習や研究演習のようにゼミ活動を伴い大学に置ける学びの基礎と応用を主とする演習科目、教員免許取得のために法令上必要な教育の基礎的理解に関する科目等のうち全学校種に共通して必要な科目、特別支援学校教員免許取得に必要な科目、学部全体の教育に関わる科目

【幼児教育コース・初等教育コース共通専門教育科目】

小学校教員免許取得に必要な教科及び教科の指導法に関する科目のうち幼稚園教員免許のための領域及び保育内容の指導法に関する科目とすることが可能な科目

【幼児教育コース専門教育科目】

幼稚園教員免許および保育士資格取得に必要な科目

【初等教育コース専門教育科目】

小学校教員免許取得に必要な科目

教育科学コース専門教育科目

【教育科学コースコア科目】

教育科学の諸領域について学ぶための科目

【教育科学コース教職関連科目】

中学校・高等学校の教員免許取得に必要な科目

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

https://www.kwansei.ac.jp/admissions/admissions_003734.html

（概要）

教育学部は、「子ども理解」を基本的な教育理念として、学校教育及び保育の現場で活躍する「教育者」、広く社会で子どもを育てる活動にかかわり、またそうした活動を支援できる「教育者」を養成することを目的としています。そのため、「実践力」、「教育力」、「人間力」など「教育者」に求められる資質をさらに伸ばそうとする意志をもつ者を受け入れることを基本方針としています。具体的には、以下のような人材を受け入れます。

- 人間・社会に対する幅広い関心を持ち、教育・保育現場などで学びと育ちを支える資質を身につけようとする意欲をもつ者。
- 高等教育に相応しい学力を持ち、主体的に問題を発見し、その問題解決に実践的に取り組もうとする意欲をもつ者。
- 多様な価値観への理解・共感を持ち、相互に人間的な成熟へと向かうことが期待できる者。
- 関西学院のスクール・モットーである「Mastery for Service（奉仕のための練達）」という精神を体現しようとする意欲をもつ者。

以上を募集方針の要素として、教科・科目を設定して筆記試験を中心とする一般選抜入学試験と、面接等を採用入れた各種入学試験を実施しています。高等学校段階までに身につけた「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」をそれぞれの入学試験において重みづけを行い、評価しています。

学部等名 国際学部
<p>教育研究上の目的（公表方法： https://www.kwansei.ac.jp/s_is/s_is_205579.html</p>
<p>（概要）</p> <p>国際学部では、「国際性の涵養」という教育・研究上の理念を達成するために、「国際事情に関する課題の理解と分析」を教育・研究上の目的とする。その目的の達成を通じて、「国際性」（世界理解、国際理解のための能力）と「人間性」を備えた世界市民として、国際的なビジネス・市民社会で活躍できる人材を養成する。</p> <p>世界における様々な地域には、異なった文化・言語、社会・ガバナンス、経済・経営などが存在する。本学部における「国際事情に関する課題の理解と分析」という教育・研究上の目的は、学生が高い外国語能力を習得し、人文・社会科学の学際的な観点から、日本や世界の諸事情を多面的に理解し、分析できるようになることである。</p> <p>そのような理解力と分析力を高めるために、世界の中でわが国と密接な関係を持つ、北米・アジア地域の文化・言語、社会・ガバナンス、経済・経営の領域に関する教育に主眼を置き、「北米研究コース」と「アジア研究コース」の2コースを設ける。</p> <p>また同時に、日本や世界の他の地域の文化・言語、社会・ガバナンス、経済・経営の各領域に関する諸科目を開講することで、地域毎の歴史的・同時代的考察を促す。</p> <p>このように人文・社会科学の一つの領域からだけでなく、複数の領域から学際的に日本や世界に関する理解を深め、そして同時に北米（アメリカとカナダ）地域や、アジア（オセアニアを含む）地域に関する学びを通じて、世界全体を見ることのできる柔軟で、かつ幅広い視野をもった「国際性」（世界理解、国際理解のための能力）を身につける。</p> <p>また、本学部の「国際事情に関する課題の理解と分析」という教育・研究上の目的を実現するために、「問題発見解決能力」、「多文化共生能力」、「倫理的価値観」、「言語コミュニケーション能力」を養成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000660.html#2</p>
<p>（概要）</p> <p>国際学部は、関西学院大学学則に定める本学部の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を達成するため、教育課程（カリキュラム）を編成・実施している。これに基づき、本学部は、学生が所定の期間在学し、教育課程上の所定の科目を修得することで、学生自身が身につけた次のような学士力を評価し、学士（国際学）の学位を授与する。</p> <p>1）国際事情に関する課題の理解力と分析力 世界の諸地域を人文・社会科学の様々な観点から理解し、分析できる。</p> <p>2）問題発見解決能力 主体的に問題を発見し、適切な方法に基づいて問題を解決できる。</p> <p>3）異文化理解・多文化共生能力 異文化に対する感受性を持ち、多様な文化と共生できる。</p> <p>4）倫理的価値観 キリスト教主義に基づく「人間教育としての教養教育」を通じて「倫理的価値観」を体得している。</p> <p>5）言語コミュニケーション能力 外国語能力を生かし、積極的に発信できる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000660.html#2</p>

(概要)

国際学部は、関西学院大学学則に定める本学部の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を達成するため、教育課程（カリキュラム）の編成方針を以下のよう

に定める。
本学部の教育課程における科目区分は、キリスト教科目、言語教育科目、国際基礎科目、国際専門科目、領域関連科目、自由履修科目とする。国際基礎科目は、入門的科目を第1類、基礎的科目を第2類、基礎演習科目を第3類とする。国際専門科目は、共通科目、北米研究コース科目、アジア研究コース科目、研究演習科目とする。

本学部の学生は、英語、そして日本にとって物的・人的交流が盛んな主要地域で使用されている中国語・朝鮮語を第1外国語として集中的に修得する。また、世界における様々な地域には、異なった文化、言語、社会、ガバナンス、経済、経営などが存在する。本学部における「国際事情に関する課題の理解と分析」という教育・研究上の目的は、学生が各地域を様々な角度（特に人文・社会科学の観点）から学際的に理解し、分析できるようになることである。そのため、専門科目を大きく3つの領域（文化・言語、社会・ガバナンス、経済・経営）に分け、国際社会、国際事情に関する幅広い知識の習得を行う。

異文化理解と自国文化の理解は互いに不可欠である。そのため、本学部では日本の文化・言語、社会・ガバナンス、経済・経営などに関する諸科目も開講することで、自国文化の歴史的・同時代的考察を促す。また、英語の運用能力を高めるため、また外国人留学生に対応するため、英語で行う授業科目を、文化・言語、社会・ガバナンス、経済・経営の各領域、北米、アジアの各研究コースに配置する。

①キリスト教科目、宗教、哲学・思想、人権などに関する科目を提供し、キリスト教主義に基づく「人間教育としての教養教育」を通じて「倫理的価値観」を養う。

②4年間を通じてひとつの外国語を重点的に学ぶことができるカリキュラムを用意し、他の言語の学習機会も広く提供し、「言語コミュニケーション能力」を養う。また、国際基礎科目、国際専門科目に英語で行う授業科目を配置する。

③海外留学によって、「異文化理解・多文化共生能力」および「言語コミュニケーション能力」を養う。海外留学としては、短期留学(約1ヶ月)、中期留学(3ヶ月～半期)、長期留学(半期～1年)の他、関連する留学プログラムを位置づける。

④国際専門科目担当の専任教員全員は、原則として各自の研究専門領域科目とともに研究演習科目を担当し、文化・言語、社会・ガバナンス、経済・経営領域の学際的学習と、少人数教育を通じて、「問題発見解決能力」を養う。

⑤文化・言語、社会・ガバナンス、経済・経営の各分野に関する基礎的な科目と国際的な科目を提供し、世界の諸地域を人文・社会科学の様々な観点から理解し分析できるようにし、「国際事情に関する課題の理解力と分析力」を養う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法）：

https://www.kwansei.ac.jp/admissions/admissions_003734.html

(概要)

国際学部では、「国際性の涵養」という教育・研究上の理念を達成するために、「国際事情に関する課題の理解と分析」を教育・研究上の目的としています。その目的の達成を通じて、「国際性」（世界理解、国際理解のための能力）と「人間性」を備えた世界市民として、国際的なビジネス・市民社会で活躍できる人材を養成します。その教育・研究上の目的は、学生が高い外国語能力を習得し、世界の各地域を様々な角度（特に人文・社会科学の観点）から理解し、分析できるようになることです。

このような教育・研究上の理念・目的を持った本学部では、以下のようなアドミッション・ポリシーを示して学生を迎え入れます。

1. 人文・社会科学の多岐にわたる領域について幅広い関心と、一定の学力と論理的思考力を持ち、総合的な観点からそれらの課題に取り組もうとする意欲を持つ者

2. 主体的な関心に応じて、みずからの問題を発見し、その問題解決に実践的に取り組も

うとする意欲を持つ者

3. グローバル化する社会の中で他者の想念や異文化に関する感性や、自己のありかたに相対的・反省的視点を持つことが期待される者

4. 関西学院に対して強い帰属意識を持ち、スクール・モットーである「**Mastery for Service** (奉仕のための練達)」という精神を体現しようとする意欲を持つ者

5. 海外生活経験を持つ生徒、留学生等、多様なバックグラウンドを有する者

6. 優れた外国語能力や、特定の分野において優れた学力・能力を持ち、入学後にそれを活かした教育成果が期待できる者

以上の項目を募集方針の要素として、教科・科目を設定して筆記試験を中心とする一般選抜入学試験と、面接等を採用入れた各種入学試験を実施しています。高等学校における基礎学力の「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を、それぞれの入学試験において重み付けを行い評価しています。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/kwansei_m_000967.html

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	8人	—					8人
神学部	—	7人	3人	0人	3人	0人	13人
文学部	—	62人	9人	0人	0人	0人	71人
社会学部	—	41人	10人	0人	1人	0人	52人
法学部	—	45人	3人	0人	1人	0人	49人
経済学部	—	38人	9人	8人	0人	0人	55人
商学部	—	32人	9人	0人	8人	0人	49人
理工学部	—	78人	20人	20人	19人	0人	137人
総合政策学部	—	42人	10人	14人	0人	0人	66人
人間福祉学部	—	27人	10人	3人	3人	0人	43人
教育学部	—	30人	9人	0人	2人	0人	41人
国際学部	—	26人	2人	15人	0人	0人	43人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		1,122人					1,122人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： https://www.kwansei.ac.jp/university/university_016002.html					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
2018年度は次の内容で4回開催した。 第1回：2019年度シラパスの変更点に関する情報交換と懇談 第2回：改革総合支援事業及び教育の質保証に係る補助金制度に関する情報交換と懇談 第3回：①教育改善等への取組状況、②初年次教育の取組状況、に関する情報交換と懇談 第4回：①アカデミックアドバイザー（A.A.）制度の運用状況、 ②ラーニング・アシスタント（L.A.）制度の運用状況、に関する情報交換と懇談							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
神学部	30人	28人	93.3%	120人	123人	102.5%	0人	0人
文学部	770人	782人	101.5%	3,080人	3,292人	106.9%	0人	0人
社会学部	650人	644人	99.1%	2,600人	2,778人	106.8%	0人	0人
法学部	680人	666人	97.9%	2,720人	2,951人	108.5%	0人	0人
経済学部	680人	616人	90.6%	2,720人	2,892人	106.3%	0人	0人
商学部	650人	626人	96.3%	2,600人	2,821人	108.5%	0人	0人
理工学部	700人	673人	96.1%	2,800人	2,891人	103.3%	0人	0人
総合政策学部	590人	569人	96.4%	2,420人	2,543人	105.1%	30人	22人

人間福祉学部	300 人	288 人	96.0%	1,200 人	1,257 人	104.8%	0 人	0 人
教育学部	350 人	348 人	99.4%	1,410 人	1,459 人	103.5%	5 人	4 人
国際学部	300 人	287 人	95.7%	1,200 人	1,263 人	105.3%	0 人	0 人
合計	5,700 人	5,527 人	97.0%	22,870 人	24,270 人	106.1%	35 人	26 人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
神学部	36 人 (100%)	6 人 (16.7%)	22 人 (61.1%)	8 人 (22.2%)
文学部	757 人 (100%)	44 人 (5.8%)	656 人 (86.7%)	57 人 (7.5%)
社会学部	657 人 (100%)	7 人 (1.1%)	604 人 (91.9%)	46 人 (7.0%)
法学部	649 人 (100%)	27 人 (4.1%)	558 人 (86.0%)	64 人 (9.9%)
経済学部	631 人 (100%)	9 人 (1.4%)	587 人 (93.0%)	35 人 (5.6%)
商学部	609 人 (100%)	9 人 (1.5%)	558 人 (91.6%)	42 人 (6.9%)
理工学部	543 人 (100%)	251 人 (46.2%)	270 人 (49.7%)	22 人 (4.1%)
総合政策学部	570 人 (100%)	19 人 (3.3%)	506 人 (88.8%)	45 人 (7.9%)
人間福祉学部	298 人 (100%)	11 人 (3.7%)	277 人 (93.0%)	10 人 (3.3%)
教育学部	366 人 (100%)	7 人 (1.9%)	335 人 (91.5%)	24 人 (6.6%)
国際学部	293 人 (100%)	6 人 (2.0%)	266 人 (90.8%)	21 人 (7.2%)
合計	5,409 人 (100%)	396 人 (7.3%)	4,639 人 (85.8%)	374 人 (6.9%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
関西学院大学、京都大学、大阪大学、神戸大学 国家公務員、(株)三井住友銀行、兵庫県教育委員会、全日本空輸(株)、(株)三菱UFJ銀行				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
神学部	31人 (100%)	24人 (77.4%)	4人 (12.9%)	3人 (9.7%)	人 (%)
文学部	820人 (100%)	684人 (83.4%)	105人 (12.8%)	32人 (3.9%)	人 (%)
社会学部	670人 (100%)	576人 (86.0%)	77人 (11.5%)	17人 (2.5%)	人 (%)
法学部	679人 (100%)	548人 (80.7%)	105人 (15.5%)	26人 (3.8%)	人 (%)
経済学部	708人 (100%)	566人 (79.9%)	123人 (17.4%)	19人 (2.7%)	人 (%)
商学部	608人 (100%)	518人 (85.2%)	76人 (12.5%)	16人 (2.6%)	人 (%)
理工学部	556人 (100%)	449人 (80.8%)	75人 (13.5%)	32人 (5.8%)	人 (%)
総合政策学部	589人 (100%)	486人 (82.5%)	90人 (15.3%)	14人 (2.4%)	人 (%)
人間福祉学部	300人 (100%)	265人 (88.3%)	27人 (9.0%)	8人 (2.7%)	人 (%)
教育学部	373人 (100%)	349人 (93.6%)	20人 (5.4%)	5人 (1.3%)	人 (%)
国際学部	297人 (100%)	264人 (88.9%)	24人 (8.1%)	9人 (3.0%)	人 (%)
合計	5,631人 (100%)	4,729人 (84.0%)	726人 (12.9%)	181人 (3.2%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年11月頃から担当教員にシラバス作成を依頼している。依頼に当たり、授業の魅力分かりやすく伝えるための書き方が記載された「授業シラバス執筆の手引き」を全学的に配布している。 ・当該年度のシラバスを、年度開始前の3月1日に春学期・秋学期開講含めてすべて公開している。シラバスはWeb上からアクセスすれば、誰でも閲覧することができる。 ・シラバスには、授業目的、到達目標、授業の概要・背景、授業方法、成績評価方法、授業計画、授業時間外学習の内容等が含まれており、授業目的、到達目標、成績評価方法は日英併記となっている。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成績評価項目は、「定期試験」、「定期レポート」、「授業中試験」、「平常レポート」、「その他」から選択式となっており、「その他」を選択した場合は、詳細の記入が必須となっている。なお成績評価項目は入力必須項目となっており、公開時に必ず設定されている。

・成績評価方法については、学期開始約1ヶ月以降は追加・修正しないよう教員にアナウンスしており、シラバスの成績評価方法欄は編集できないようロックをかけている。

・学修成果を厳格かつ適正に評価するために、「成績調査依頼期間」を設けており、学生は成績に疑問がある場合は、担当教員に問い合わせることができる。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

・すべての学生が卒業時に学部の特徴なく共通に身に付けるべき知識・能力・資質を「Kwansei コンピテンシー」と定め、これを大学の教育に通底するものとして位置づけている。

・学部ごとの特色に応じたディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)を定め、公表している。また、ディプロマ・ポリシーに基づいたカリキュラム・ポリシーを定め、学部の教育目標を達成するための教育課程を編成している。

・卒業の要件については、履修心得・教育課程表に記載し、周知している。

・卒業判定の手順については、履修心得・掲示等で成績発表、成績調査依頼期間、卒業生発表のスケジュールを学生に周知している。

学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)	
神学部	—	124 単位	有・無	24 単位	
文学部	文化歴史学科	124 単位		有・無	■2012 年度以降入学生 第1 学年：22 単位 第2 学年以降：24 単位 ■2009～2011 年度入学生 第1 学年：22 単位 第2,3 学年：24 単位 第4 学年：30 単位
	総合心理学科				
	文学言語学科				
社会学部	社会学科	124 単位			24 単位
法学部	法律学科	124 単位			24 単位
	政治学科				
経済学部	—	124 単位			24 単位
商学部	—	124 単位			■2017 年度以降入学生 全学年：24 単位 ■2010～2016 年度入学生 第1,2 学年：22 単位 第3,4 学年：24 単位
理工学部	物理学科	128 単位			有・無
	化学科				
	生命科学科				
	情報科学科				
	数理科学科				
	人間システム工学科				
	先進エネルギーナノ工学科				
	環境・応用科学科				
	生命医化学科				
総合政策学部	総合政策学科	128 単位	有・無	24 単位	
	メディア情報学科				
	国際政策学科				
	都市政策学科				

人間福祉学部	社会福祉学科	124 単位		24 単位
	社会起業学科			
	人間科学科			
教育学部	教育学科	124 単位		24 単位
国際学部	国際学科	124 単位		■2014 年度以降入学生 全学年：24 単位 ■2013 年度以前入学生 第 1, 2 学年：24 単位 第 3, 4 学年：28 単位
G P A の活用状況 (任意記載事項)		公表方法： ・履修心得 (年度開始前に全学生に配布される冊子) ・ホームページ (https://www.kwansei.ac.jp/a_affairs/a_affairs_000539.html)		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/pr/pr_001816.html

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	学年	授業料 (年間)	入学金	その他 (教育充実費 および 実験自習費)	備考 (任意記載事項) ※その他には、 教育充実費と 実験自習費が含まれる。
神学部	-	1	777,000 円	200,000 円	182,000 円	
		2,3	804,000 円	0 円	212,000 円	
		4	780,000 円	0 円	212,000 円	
文学部	文化歴史学科(地理学地域文化学専修を除く)、 文学言語学科	1	777,000 円	200,000 円	182,000 円	
		2,3	804,000 円	0 円	212,000 円	
		4	780,000 円	0 円	212,000 円	
	文化歴史学科(地理学地域文化学専修)	1	777,000 円	200,000 円	217,000 円	その他の内、 35,000 円は実験実習費
		2,3	804,000 円	0 円	247,000 円	その他の内、 35,000 円は実験実習費 ※1
		4	780,000 円	0 円	247,000 円	その他の内、 35,000 円は実験実習費 ※1
	総合心理科学科	1	891,000 円	200,000 円	232,000 円	その他の内、 23,000 円は実験実習費
		2,3	804,000 円	0 円	247,000 円	その他の内、 35,000 円は実験実習費
		4	780,000 円	0 円	247,000 円	その他の内、 35,000 円は実験実習費
社会学部	社会学科	1	777,000 円	200,000 円	182,000 円	
		2,3	804,000 円	0 円	212,000 円	※2
		4	780,000 円	0 円	212,000 円	※2
法学部	法律学科 政治学科	1	777,000 円	200,000 円	182,000 円	
		2,3	804,000 円	0 円	212,000 円	
		4	780,000 円	0 円	212,000 円	
経済学部	-	1	777,000 円	200,000 円	182,000 円	
		2,3	804,000 円	0 円	212,000 円	
		4	780,000 円	0 円	212,000 円	
商学部	-	1	777,000 円	200,000 円	182,000 円	
		2,3	804,000 円	0 円	212,000 円	
		4	780,000 円	0 円	212,000 円	
理工学部	数理科学科、物理学 科、先進エネルギー ナノ工学科、化学 科、環境・応用化学 科、生命科学科、生 命医化学科、情報科 学、人間システム 工学科	1	1,085,000 円	200,000 円	372,000 円	その他の内、 106,000 円は実験実習費
		2,3	1,177,000 円	0 円	416,000 円	その他の内、 106,000 円は実験実習費
		4	1,159,000 円	0 円	416,000 円	その他の内、 106,000 円は実験実習費
総合政策学部	総合政策学科 国際政策学科	1	977,000 円	200,000 円	260,000 円	その他の内、 25,000 円は実験実習費 ※5
		2,3	1,047,000 円	0 円	300,000 円	その他の内、 25,000 円は実験実習費 ※5
		4	1,014,000 円	0 円	300,000 円	その他の内、 25,000 円は実験実習費 ※5

	メディア情報学科 都市政策学科	1	977,000 円	200,000 円	260,000 円	その他の内、 25,000 円は実験実習費 ※5
		2,3	1,047,000 円	0 円	325,000 円	その他の内、 50,000 円は実験実習費 ※5
		4	1,014,000 円	0 円	325,000 円	その他の内、 50,000 円は実験実習費 ※5
人間福祉学部	社会福祉学科 社会起業学科	1	910,000 円	200,000 円	228,000 円	その他の内、 10,000 円は実験実習費
		2,3	965,000 円	0 円	264,000 円	その他の内、 10,000 円は実験実習費
		4	935,000 円	0 円	264,000 円	その他の内、 10,000 円は実験実習費
	人間科学科	1	910,000 円	200,000 円	226,000 円	その他の内、 8,000 円は実験実習費 ※3
		2,3	965,000 円	0 円	262,000 円	その他の内、 8,000 円は実験実習費 ※3
		4	935,000 円	0 円	262,000 円	その他の内、 8,000 円は実験実習費 ※3
教育学部	教育学科	1	977,000 円	200,000 円	240,500 円	その他の内、 5,500 円は実験実習費 ※4
		2,3	1,045,000 円	0 円	280,500 円	その他の内、 5,500 円は実験実習費 ※4
		4	1,013,000 円	0 円	280,500 円	その他の内、 5,500 円は実験実習費 ※4
国際学部	国際学科	1	977,000 円	200,000 円	235,000 円	
		2,3	1,045,000 円	0 円	275,000 円	
		4	1,013,000 円	0 円	275,000 円	

- ※1 文学部文化歴史学科地理学地域文化学専修に所属する者は、第 2 学年以降に実験実習費を納入するものとします。(2019 年度年額 35,000 円)
- ※2 社会学部において第 3 学年度以降に特定の授業科目を履修する者は、実験実習費を納入するものとします。(2019 年度年額 25,000 円)
- ※3 人間福祉学部人間科学科に所属する者に限り実験実習費は異なります。(2019 年度年額 8,000 円)
- ※4 教育学部教育学科幼児教育コース及び初等教育コースに所属する者は、実験実習費を納入するものとします。(2019 年度年額 5,500 円)
教育学部教育学科教育科学コースに所属し、特定の授業科目を履修する者は、実験実習費を納入するものとします。(2019 年度年額 5,500 円)
- ※5 総合政策学部において特定のプログラムを履修する者は、実験実習費 (2019 年度年額 15,000 円) を別途徴収します。

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

<p>a. 学生の修学に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関学では学生一人ひとりが充実した大学生活を送れるよう、環境面（学生会館、キャンパス間のシャトルバス、トレーニングセンター等）や経済面（奨学金制度、寮・下宿、アルバイト）まで学生生活をあらゆる角度から支援している。
<p>b. 進路選択に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西宮上ヶ原・西宮聖和・神戸三田・大阪梅田の各キャンパスにあるキャリアセンターを設置し、年間を通じて、キャリア支援・就職支援・インターンシップなどのサポートプログラムを実施している。また、キャリア・アドバイザーが常駐し、進路選択や就職活動、資格取得などキャリアデザインに関するあらゆる相談に答えている。 ・キャリア支援 <p>本学では「学生一人ひとりの長所を引き出し、強みを活かす」ことを基本的な考え方とし、入学時からのキャリア支援を行っている。就職活動は「就職活動のためのみの活動」ではなく、自らの人生を考える一つの機会ととらえ、活動が本格化する3年生・大学院1年生次に向けて十分な土台を築くことができるよう、1・2年生での低年次におけるキャリア教育を重視している。</p> <p>将来、社会に羽ばたき、スクールモットー“Mastery for Service”を実践し社会に貢献するための実力を身につけるため、まずは学生自身が大学生活を通して「強みと持ち味」を認識し、自らの軸を形成することができるように、4年間にわたるプログラムを提供している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職支援 <p>就職支援では「キャリアガイダンス」と「個人面談」を軸にサポートを行っている。3年生・大学院1年生の春に実施する「第1回キャリアガイダンス」では、就職活動に関するさまざまな情報を掲載したオリジナルの「就職活動ハンドブック」を配付し、就職活動のスケジュールや、「いつ、どんな準備をすべきか」についてじっくり解説している。</p> <p>また近年、参加学生が年々増加しているインターンシップについても、応募方法や学内プログラムについて案内している。</p> <p>キャリアガイダンスは年間を通じて複数回開催し、その時々に応じたテーマに即した情報提供を行っている。またあわせて予約制の個人面談で、自己分析や面接対策、志望動機の考え方など、それぞれの学生の活動状況にあわせたアドバイスをを行っている。</p>
<p>c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合支援センターに、障がいのある学生の修学支援を担うキャンパス自立支援室と、様々な学生のメンタルヘルスケアを担う学生支援相談室の2つの専門窓口を設置している。それぞれの窓口が連携をとりながら、さらに大学内外の関係部署・機関と協力しながら、全学体制での支援を行っている。（いずれの窓口にも専門スタッフを配置。） ・関西学院大学では、障がい学生が誰しも等しく教育を受けられる環境・体制を整え、個々のニーズにあった支援を提供するために、支援に関する基本方針・実施基準を定めている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/kikaku/kikaku_m_000144.html